

2019年2月期

決算説明資料

2019年4月19日



株式会社竹内製作所

(証券コード:6432)

- ▶ 2019年2月期・連結業績 実績
- ▶ 2020年2月期・連結業績 予想
- ▶ 前・中期経営計画レビュー (2016年度－2018年度)
- ▶ 新・中期経営計画 (2019年度－2021年度)
 - (1) 環境分析、市場分析、自社分析
 - (2) スローガン、経営課題、数値目標
 - (3) 株主還元
- ▶ ご参考資料

(1) 販売台数は米国、欧州ともに増加

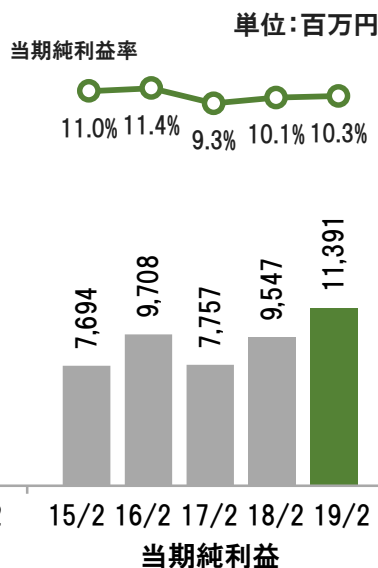
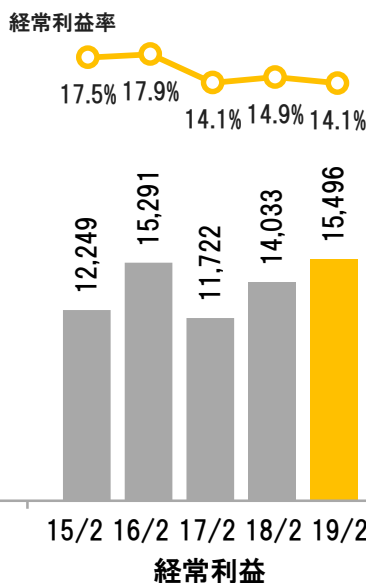
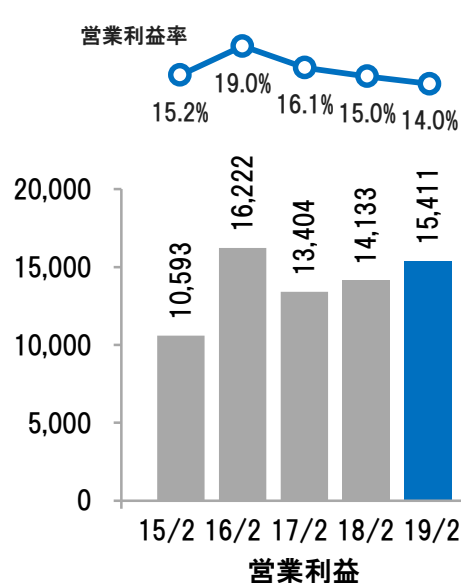
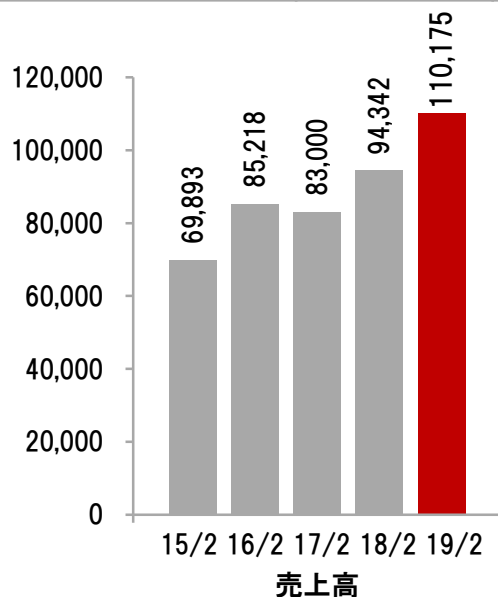
- 北米の販売台数は **15.4%増加** (上期:15.5%増加、下期:15.4%増加、対前年同期比)
 - 2018年1月発売のクローラーローダー(TL6R/3.5トン)が販売好調
- 欧州の販売台数は **20.0%増加** (上期:9.9%増加、下期:33.4%増加、対前年同期比)
 - 2018年3月発売のミニショベル(TB225/2.3トン)が販売好調
 - 既存製品(2017年5月発売)の油圧ショベル(TB2150R/15トン)が販売好調
 - 国別では、英国、フランスの販売子会社 及びドイツ、オーストリア、デンマークのディストリビューターが販売好調 (英国は上期好調、下期一服)
- トータル販売台数は **16.0%増加** (上期:11.6%増加、下期:21.8%増加、対前年同期比)

(2) 売上高は16.8%増加、営業利益は9.0%増加

- 売上高増減率 上期:14.3%増加、下期:19.8%増加 (対前年同期比)
- 営業利益増減率 上期:11.1%増加、下期:6.1%増加 (対前年同期比)
- 原材料価格の上昇、販売台数の増加に伴う運搬費の増加を増収効果で吸収
- 新製品の売れ行きが好調で、全体に占める小型機種の販売構成比率が相対的に上昇したことにより、利益率が低下

連結業績ハイライト (2019年2月期・実績)

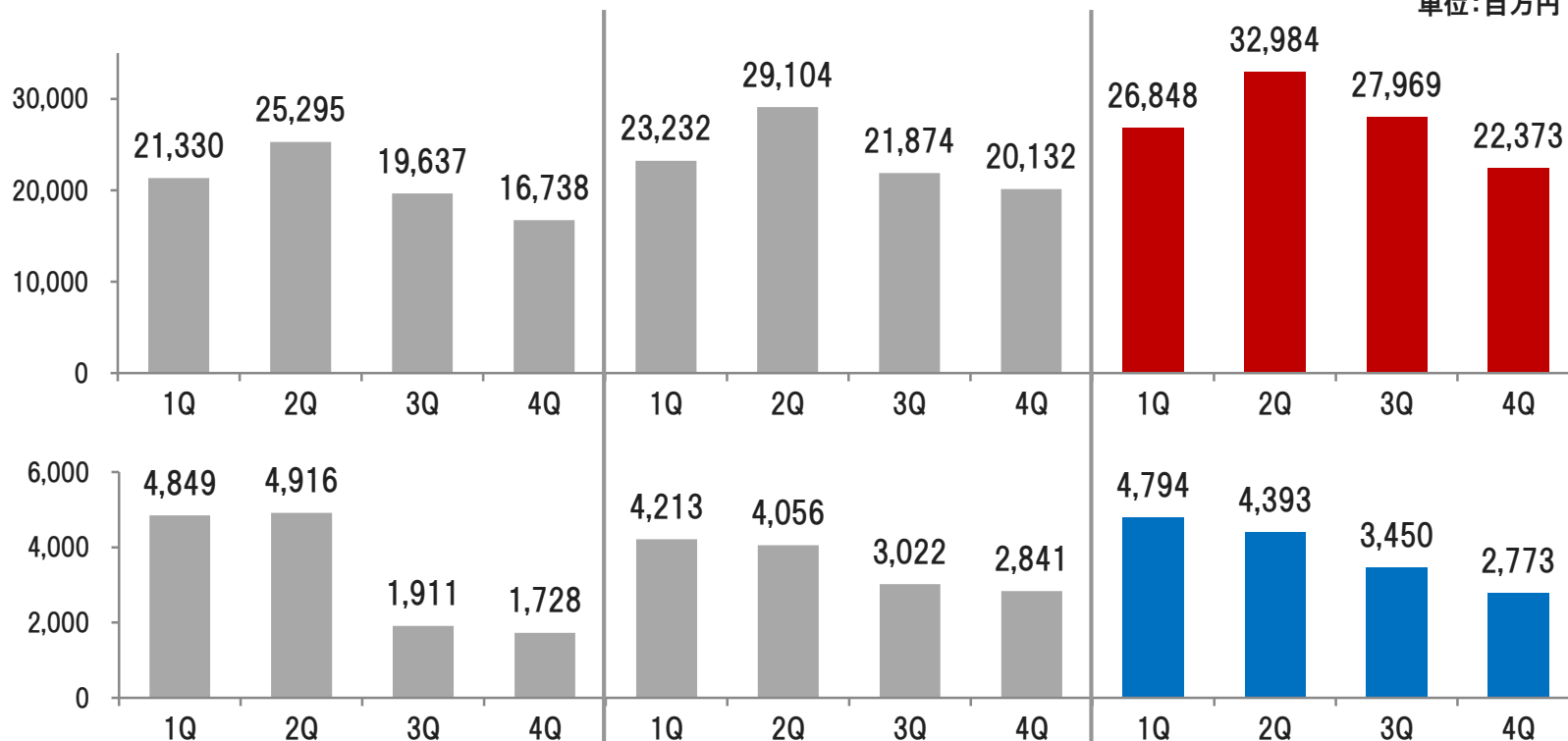
単位:百万円	2018年2月期		2019年2月期					
	通期	売上比率	上期	下期	通期	売上比率	増減額	増減率
■ 売上高	94,342	—	59,832	50,343	110,175	—	+15,833	+16.8%
■ 営業利益	14,133	15.0%	9,187	6,224	15,411	14.0%	+1,277	+9.0%
■ 経常利益	14,033	14.9%	9,338	6,158	15,496	14.1%	+1,463	+10.4%
■ 当期純利益 <small>親会社株主に帰属する</small>	9,547	10.1%	6,927	4,464	11,391	10.3%	+1,843	+19.3%
設備投資額	1,073	1.1%	811	1,414	2,225	2.0%	+1,152	+107.3%
減価償却費	1,265	1.3%	598	682	1,280	1.2%	+15	+1.2%
受注高	97,389	—	64,045	53,896	117,941	—	+20,552	+21.1%
受注残高	22,523	—	26,737	30,290	30,290	—	+7,766	+34.5%



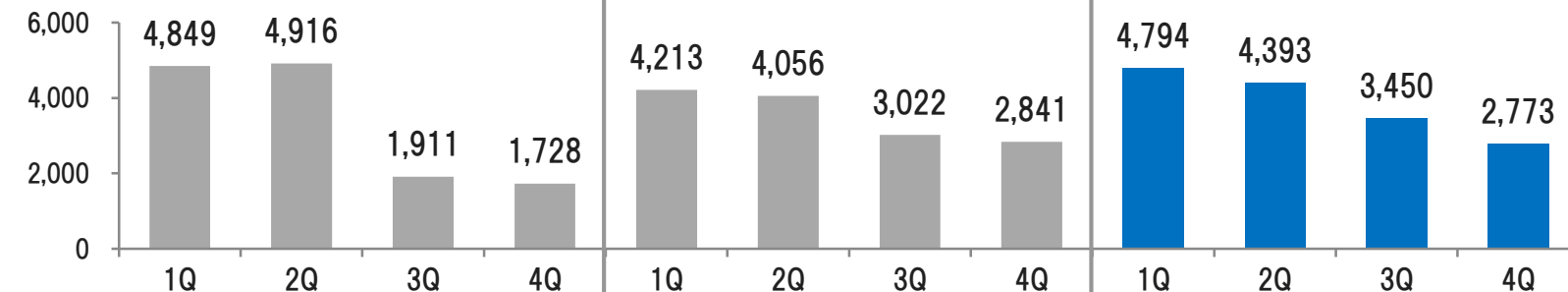
四半期毎の売上高・営業利益

単位:百万円

売上高



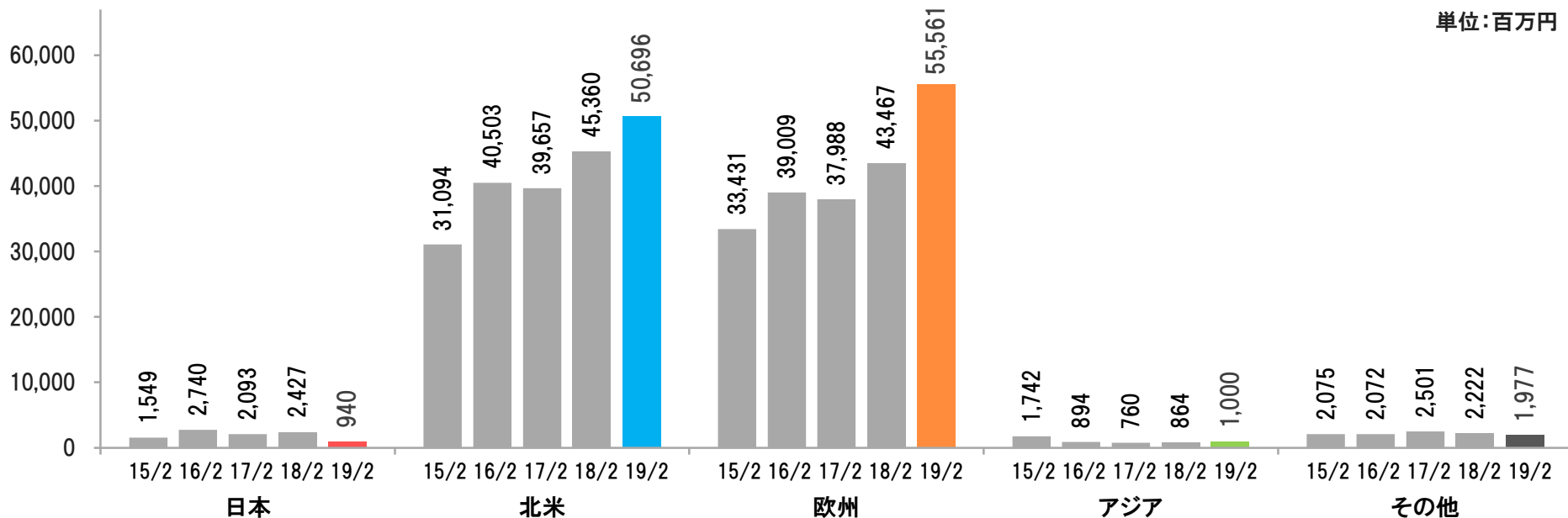
営業利益



	2017年2月期				2018年2月期				2019年2月期			
為替レート	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
円/米ドル	111.98	105.83	102.96	113.89	111.90	111.14	112.17	111.24	107.57	109.91	112.68	111.38
円/英ポンド	159.73	147.05	131.01	142.01	141.15	144.43	148.74	151.95	149.90	144.87	145.77	143.48
円/ユーロ	125.45	117.26	114.51	121.47	119.88	127.31	132.20	133.97	131.30	128.07	130.50	127.71
円/人民元	17.64	16.39	15.41	16.16	16.42	16.29	16.69	17.09	17.03	16.97	16.29	16.25

地域別売上高 (2019年2月期・実績)

単位:百万円	2018年2月期		2019年2月期					
	通期	構成比	上期	下期	通期	構成比	増減額	増減率
■ 日本	2,427	2.6%	577	363	940	0.9%	△1,486	△61.3%
■ 北米	45,360	48.1%	28,310	22,386	50,696	46.0%	+5,335	+11.8%
■ 欧州	43,467	46.1%	29,236	26,325	55,561	50.4%	+12,093	+27.8%
■ アジア	864	0.9%	575	425	1,000	0.9%	+135	+15.7%
■ その他	2,222	2.4%	1,131	846	1,977	1.8%	△245	△11.0%
売上高合計	94,342	100.0%	59,832	50,343	110,175	100.0%	+15,833	+16.8%
海外売上高	91,915	97.4%	59,254	49,981	109,235	99.1%	+17,320	+18.8%



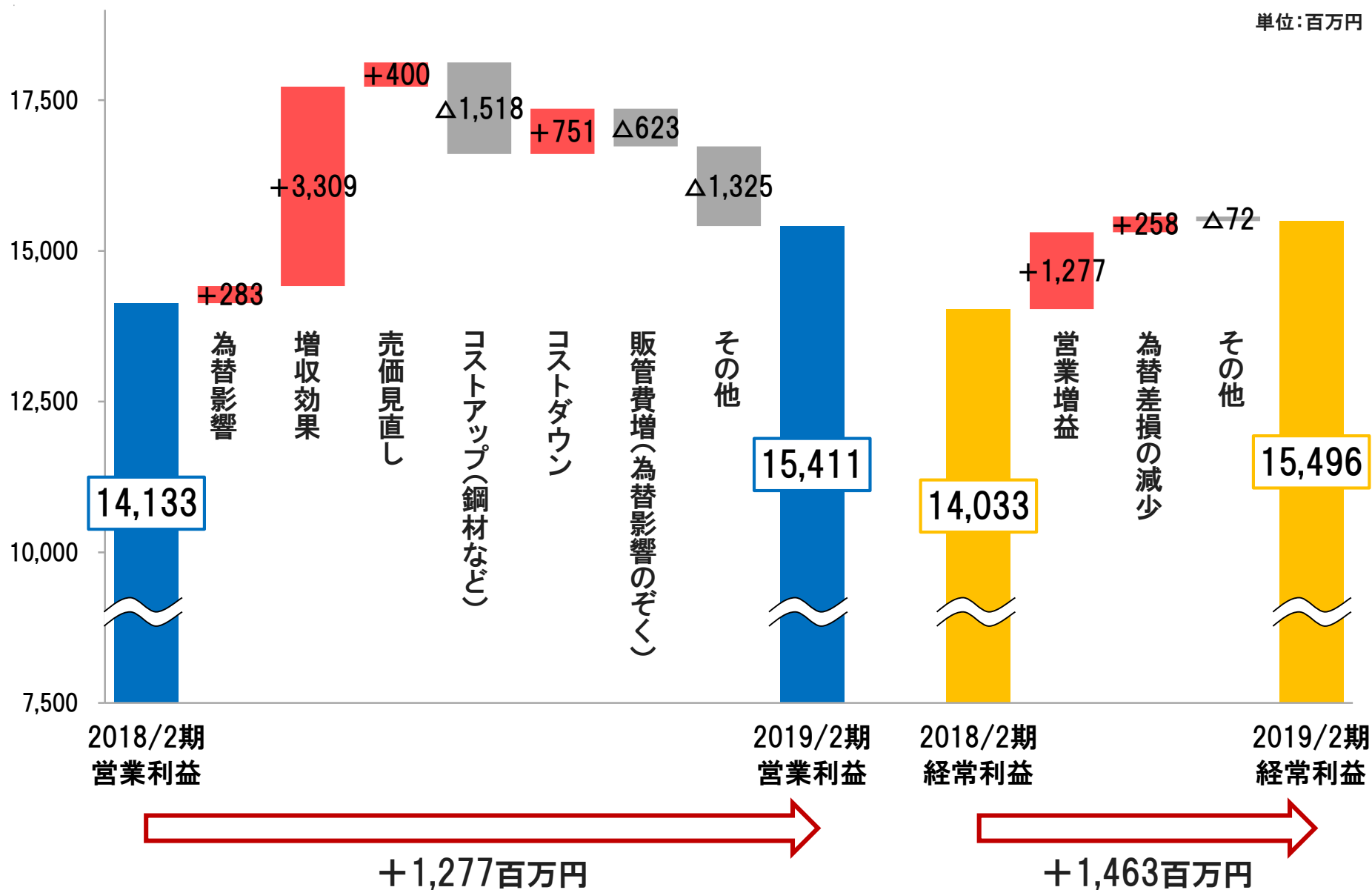
所在地別セグメント情報 (2019年2月期・実績)

単位:百万円	2018年2月期		2019年2月期					
	通期	利益率	上期	下期	通期	利益率	増減額	増減率
日本売上高	33,116	—	20,448	19,699	40,147	—	+7,030	+21.2%
セグメント利益	12,308	37.2%	6,192	5,458	11,650	29.0%	△658	△5.3%
米国売上高	45,363	—	28,311	22,389	50,700	—	+5,336	+11.8%
セグメント利益	1,544	3.4%	1,538	1,193	2,731	5.4%	+1,187	+76.8%
英国売上高	10,822	—	7,298	4,894	12,192	—	+1,369	+12.7%
セグメント利益	534	4.9%	427	176	603	4.9%	+68	+12.8%
フランス売上高	4,732	—	3,452	3,162	6,614	—	+1,881	+39.8%
セグメント利益	314	6.6%	142	95	237	3.6%	△77	△24.5%
中国売上高	308	—	321	200	521	—	+213	+69.3%
セグメント利益	401	130.2%	263	159	422	81.0%	+21	+5.4%

- 日本セグメント (竹内製作所)
 - ・ 建設機械の開発、製造
 - ・ 日本国内での建設機械の販売 / 欧州及びアジア・オセアニア地域のディストリビューターへの建設機械の販売
 - ・ 攪拌機の開発、製造、販売 (2018年6月1日付をもって攪拌機事業を譲渡、2019年2月期は1Qのみ業績貢献)
- 米国セグメント (TAKEUCHI MFG.(U.S.),LTD.)
 - ・ 米国及びカナダでの建設機械の販売
- 英国セグメント (TAKEUCHI MFG.(U.K.)LTD.)
 - ・ 英国での建設機械の販売
- フランスセグメント (TAKEUCHI FRANCE S.A.S.)
 - ・ フランスでの建設機械の販売
- 中国セグメント (竹内工程機械(青島)有限公司)
 - ・ 中国での建設機械の販売
 - ・ 中国及びアジア向けの建設機械の製造
 - ・ 日本セグメント向けの建設機械の製缶品(部材)の製造、調達及び販売

連結損益増減要因 (2019年2月期・実績)

単位: 百万円



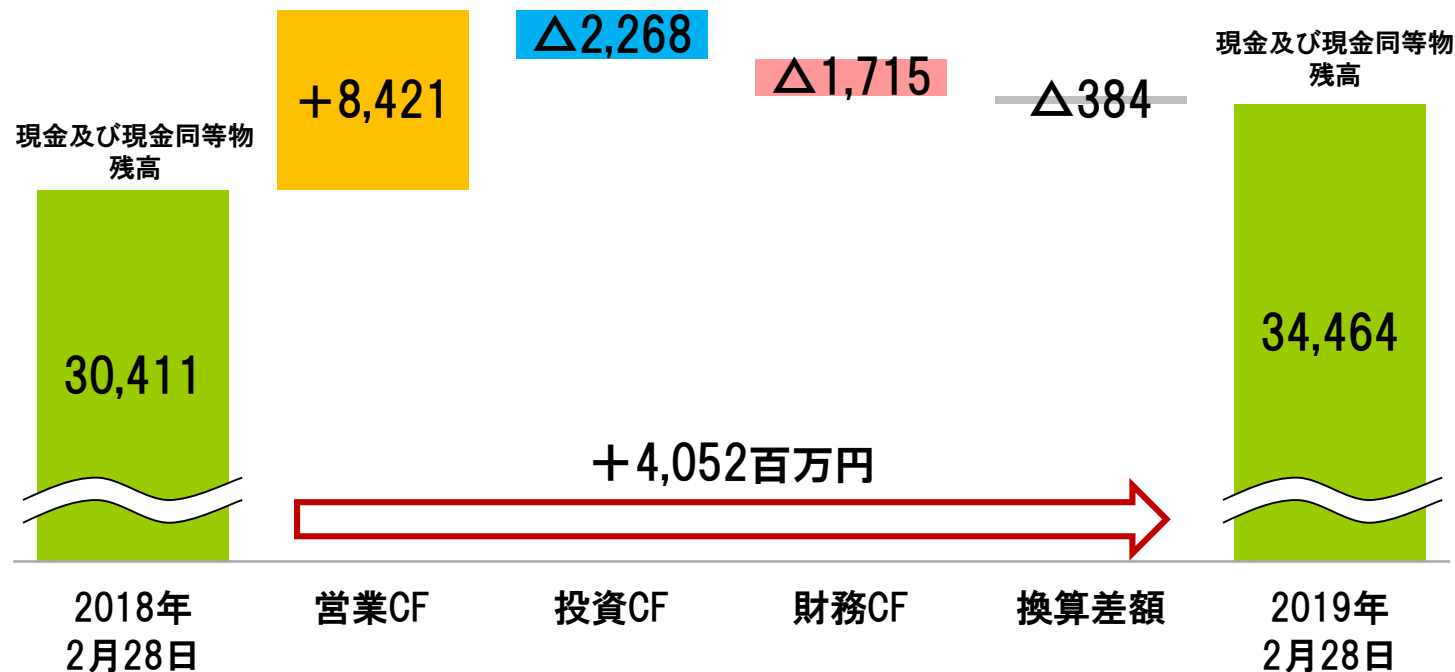
連結貸借対照表 (2019年2月28日現在)

単位:百万円

		2018年2月28日		2019年2月28日			
		残高	構成比	残高	構成比	増減額	増減率
資産 の部	現金及び預金	30,990	33.8%	35,072	33.7%	+4,082	+13.2%
	受取手形及び売掛金	22,452	24.5%	23,156	22.3%	+703	+3.1%
	たな卸資産	23,898	26.0%	30,140	29.0%	+6,241	+26.1%
	その他流動資産	3,272	3.6%	3,326	3.2%	+54	+1.7%
	流動資産	80,614	87.8%	91,696	88.1%	+11,082	+13.7%
	固定資産	11,185	12.2%	12,348	11.9%	+1,163	+10.4%
合計		91,799	100.0%	104,045	100.0%	+12,245	+13.3%
負債 ・ 純 資産 の部	支払手形及び買掛金	17,572	19.1%	20,561	19.8%	+2,989	+17.0%
	その他流動負債	4,967	5.4%	5,257	5.1%	+289	+5.8%
	流動負債	22,540	24.6%	25,818	24.8%	+3,278	+14.5%
	固定負債	1,152	1.3%	1,046	1.0%	△106	△9.2%
	負債合計	23,692	25.8%	26,864	25.8%	+3,172	+13.4%
	純資産合計	68,106	74.2%	77,180	74.2%	+9,073	+13.3%
合計		91,799	100.0%	104,045	100.0%	+12,245	+13.3%

連結キャッシュ・フロー計算書 (2019年2月期・実績) **TAKEUCHI** From World First to World Leader

単位:百万円



単位:百万円

営業キャッシュ・フロー		投資キャッシュ・フロー		財務キャッシュ・フロー	
	増減額		増減額		増減額
税金等調整前当期純利益	15,694	有形固定資産の取得	△2,233	配当金の支払	△1,711
減価償却費	1,280	無形固定資産の取得	△104		
たな卸資産の増加	△7,034	投資有価証券の取得	△301		
運転資金の減少	2,757	攪拌機事業の譲渡による収入	386		
法人税等の支払	△4,393			その他	△4
その他	117	その他	△16		
合計	8,421	合計	△2,268	合計	△1,715

- ▶ 2019年2月期・連結業績 実績
- ▶ 2020年2月期・連結業績 予想
- ▶ 前・中期経営計画レビュー (2016年度－2018年度)
- ▶ 新・中期経営計画 (2019年度－2021年度)
 - (1) 環境分析、市場分析、自社分析
 - (2) スローガン、経営課題、数値目標
 - (3) 株主還元
- ▶ ご参考資料

（1）需要動向 … 米国、欧州ともに製品需要は高い水準を維持すると予想

- 米国では、労働市場が力強さを維持し、所得は増加すると見込まれ、個人消費及び住宅需要は緩やかに拡大していくと予想
- 欧州では、主要国のマクロ経済は減速感が強まっているものの、人手不足を背景に雇用・所得環境は好調さを維持し、個人消費及び住宅需要は底堅いと予想
- 米欧ともに、生活インフラの老朽化が進み、メンテナンス工事が待ったなしの状況

（2）販売台数の見通し … 買入部品の調達不足により販売台数を調整

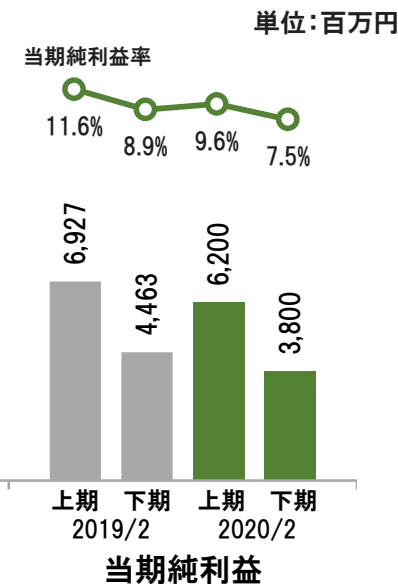
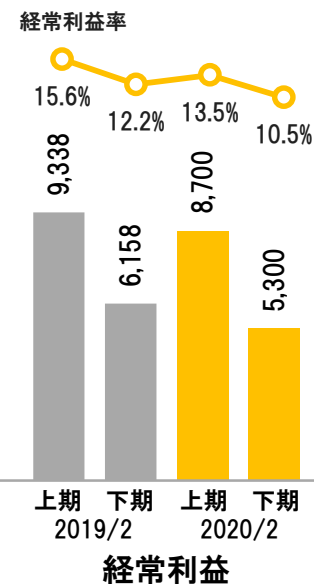
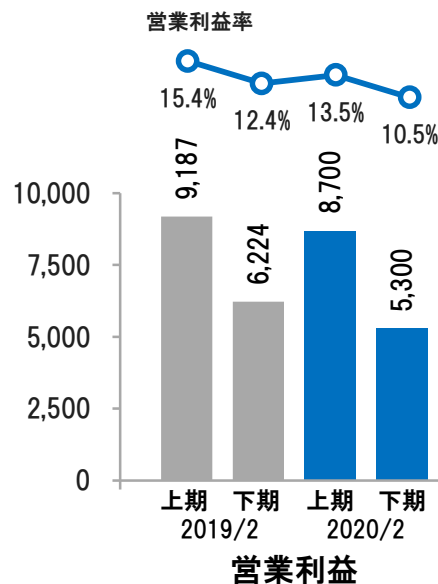
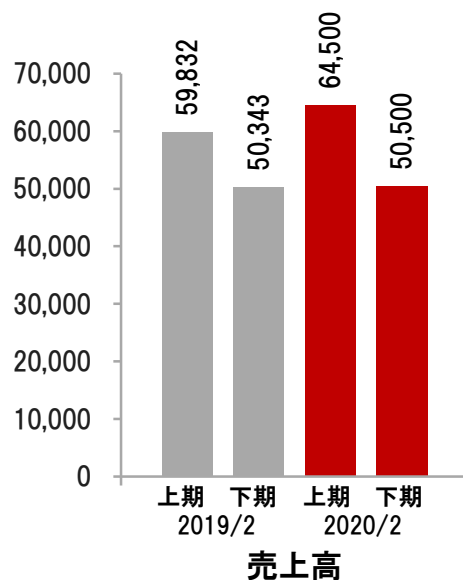
- 北米の販売台数は **7%増加** の予想（上期:13%増加、下期:1%減少、対前年同期比）
- 欧州の販売台数は **1%増加** の予想（上期:5%増加、下期:3%減少、対前年同期比）
- トータル販売台数は **2%増加** の予想（上期:6%増加、下期:3%減少、対前年同期比）

（3）利益見通し … 以下を主因として、**増収・減益** を予想

- 為替影響
- 売価見直し
- 原材料コストアップ（鋼材、油脂類等）
- 販管費増加（主に販売運賃）

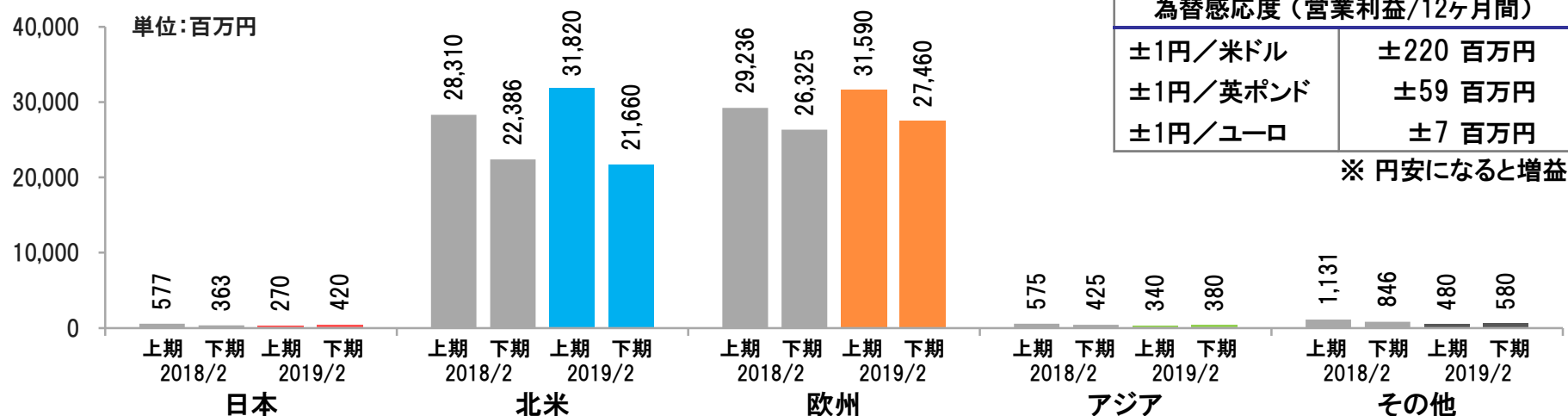
連結業績予想ハイライト (2020年2月期・予想)

単位:百万円	2019年2月期		2020年2月期(予想)					
	通期	売上比率	上期	下期	通期	売上比率	増減額	増減率
■ 売上高	110,175	—	64,500	50,500	115,000	—	+4,824	+4.4%
■ 営業利益	15,411	14.0%	8,700	5,300	14,000	12.2%	△1,411	△9.2%
■ 経常利益	15,496	14.1%	8,700	5,300	14,000	12.2%	△1,496	△9.7%
■ 親会社株主に帰属する 当期純利益	11,391	10.3%	6,200	3,800	10,000	8.7%	△1,391	△12.2%
設備投資額	2,225	2.0%	1,383	2,405	3,789	3.3%	+1,563	+70.2%
減価償却費	1,280	1.2%	653	830	1,483	1.3%	+202	+15.8%
1株純利益	238.83円	配当性向	—	—	209.66円	配当性向	△29.17円	△12.2%
1株配当金	45.00円	18.8%	—	—	50.00円	23.8%	+5.00円	+11.1%



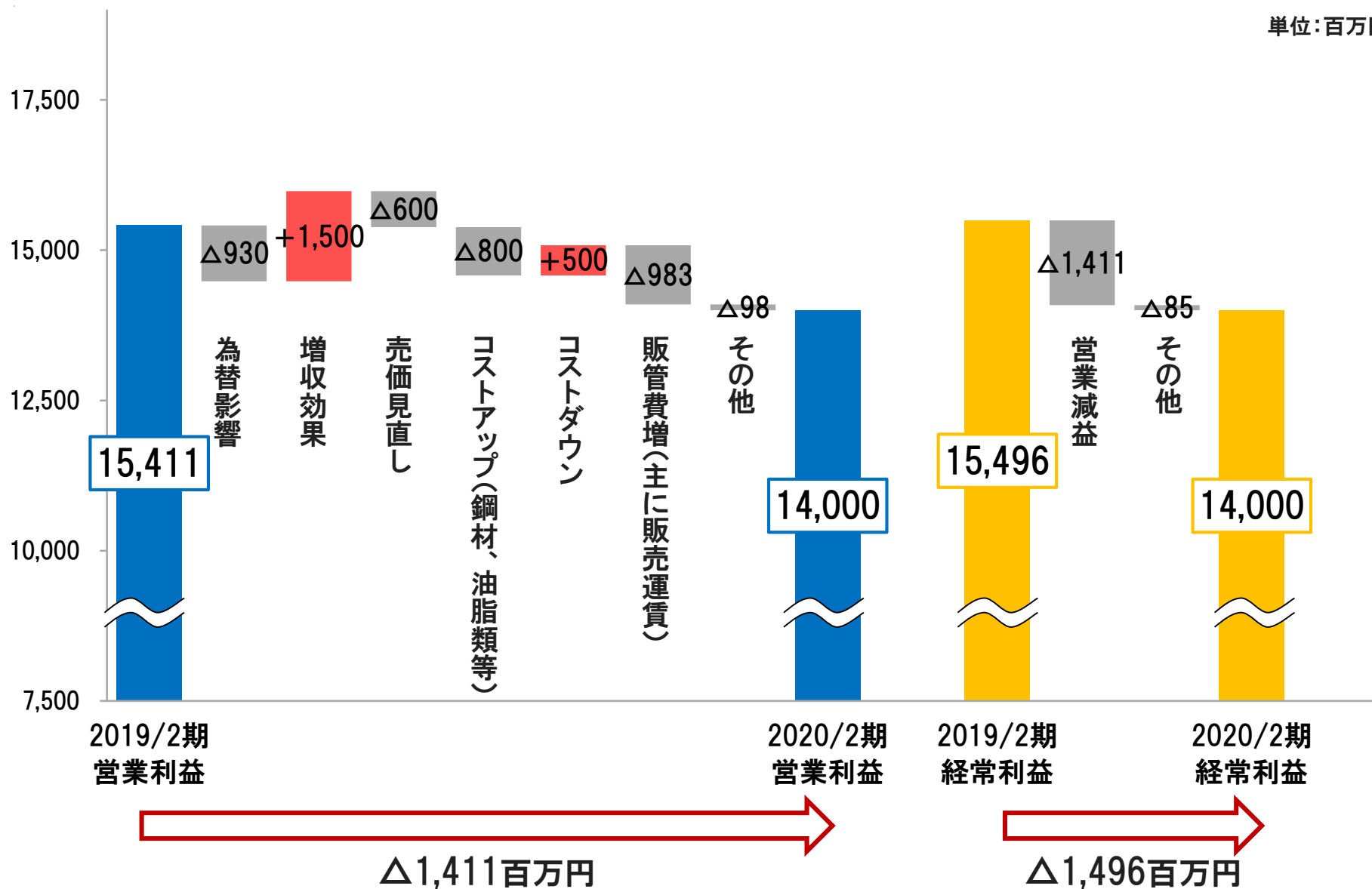
地域別売上高予想 (2020年2月期・予想)

単位:百万円	2019年2月期		2020年2月期(予想)					
	通期	構成比	上期	下期	通期	構成比	増減額	増減率
■ 日本	940	0.9%	270	420	690	0.6%	△250	△26.6%
■ 北米	50,696	46.0%	31,820	21,660	53,480	46.5%	+2,783	+5.5%
■ 欧州	55,561	50.4%	31,590	27,460	59,050	51.3%	+3,488	+6.3%
■ アジア	1,000	0.9%	340	380	720	0.6%	△280	△28.0%
■ その他	1,977	1.8%	480	580	1,060	0.9%	△917	△46.4%
売上高合計	110,175	100.0%	64,500	50,500	115,000	100.0%	+4,842	+4.4%
円/米ドル	110.06円	—	108.00円	108.00円	108.00円	—	△2.06円	△1.9%
円/英ポンド	145.91円	—	140.00円	140.00円	140.00円	—	△5.91円	△4.1%
円/ユーロ	129.16円	—	122.00円	122.00円	122.00円	—	△7.16円	△5.5%
円/人民元	16.64円	—	15.90円	15.90円	15.90円	—	△0.74円	△4.4%



連結損益増減要因 (2020年2月期・予想)

単位:百万円

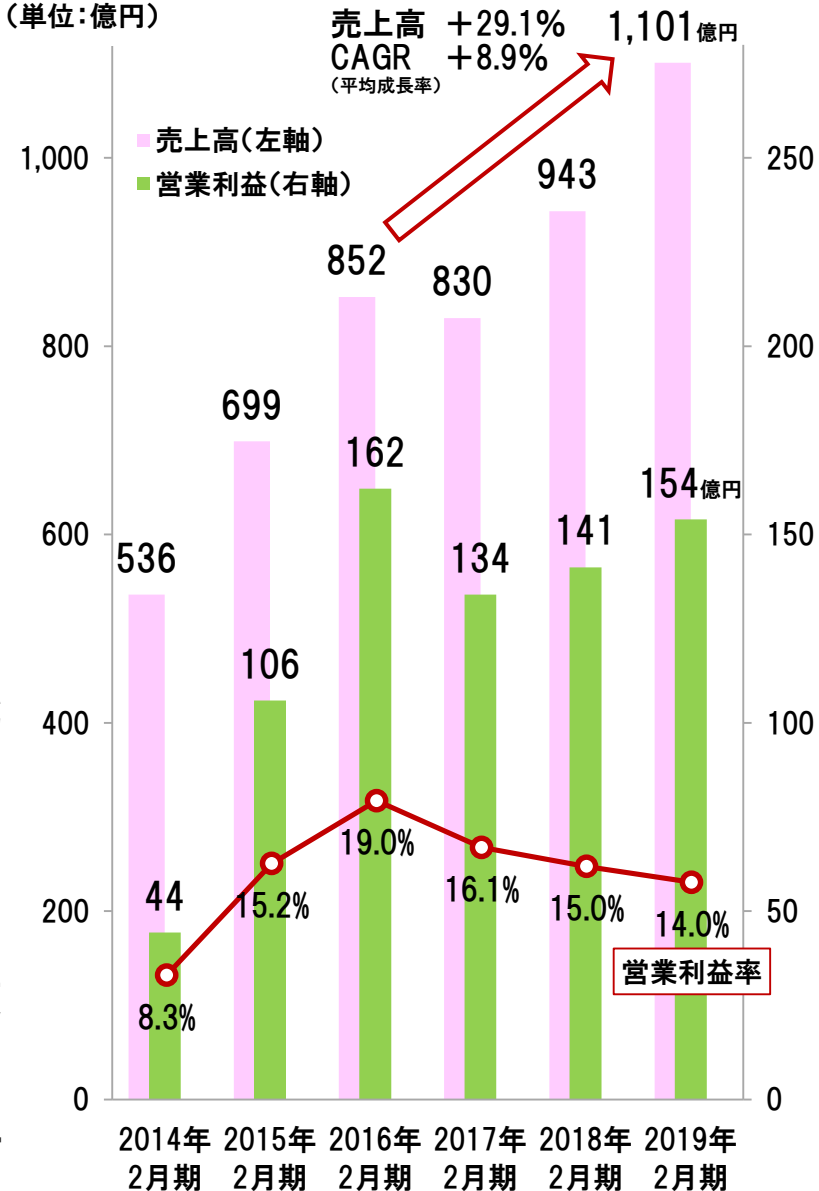


- ▶ 2019年2月期・連結業績 実績
- ▶ 2020年2月期・連結業績 予想
- ▶ **前・中期経営計画レビュー** (2016年度－2018年度)
- ▶ **新・中期経営計画** (2019年度－2021年度)
 - (1) 環境分析、市場分析、自社分析
 - (2) スローガン、経営課題、数値目標
 - (3) 株主還元
- ▶ **ご参考資料**

前・中期経営計画レビュー ①数値目標

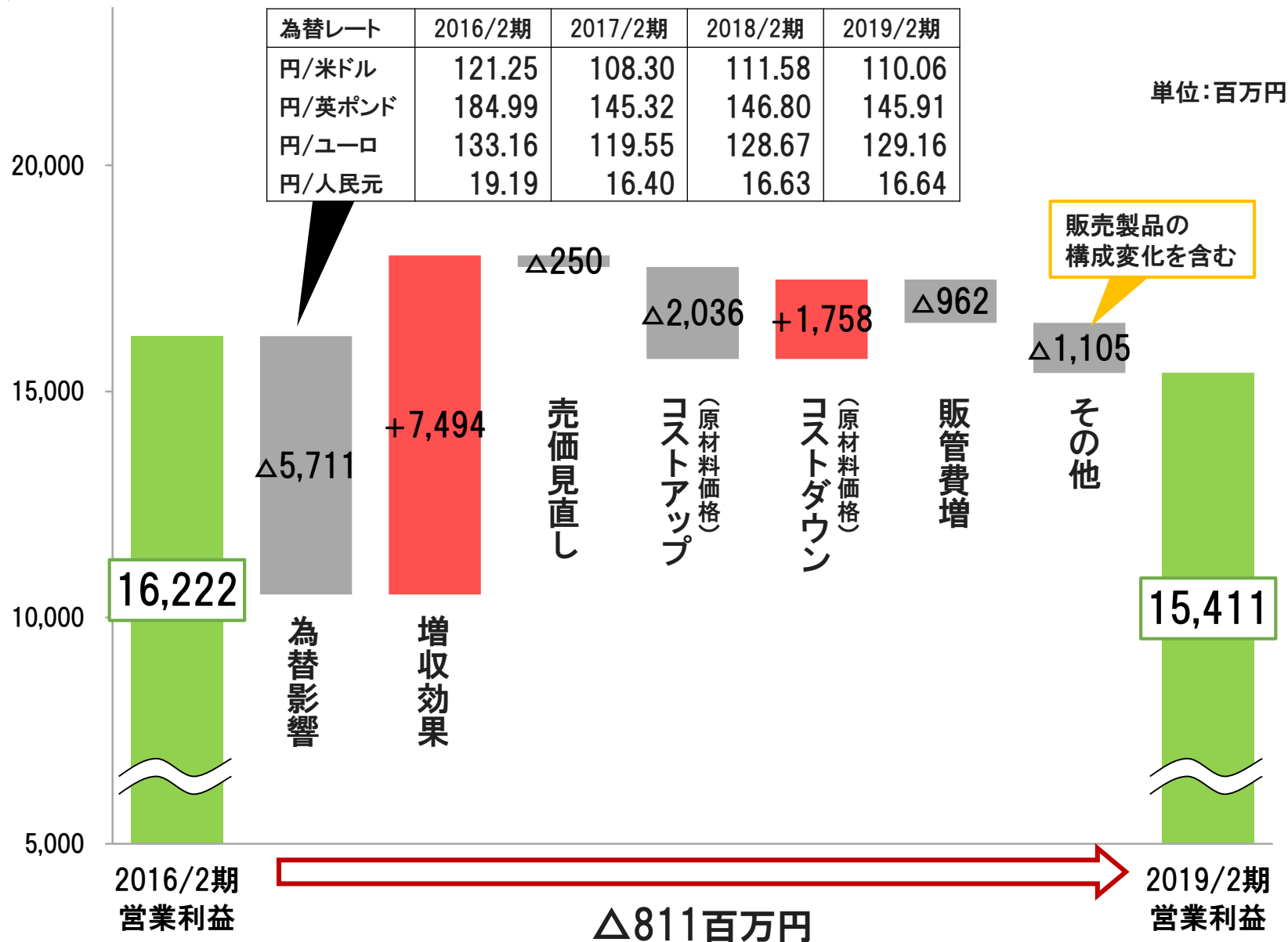
	2019年2月期		評価
	中期目標	実績	
売上高	886～940億円	1,101億円	◎
営業利益率	15%～19%	14.0%	×
海外調達比率	30%以上	30.1%	○
米ドル	105～115円	110.06円	
英ポンド	150～167円	145.91円	
ユーロ	120～130円	129.16円	
人民元	16.5～18.0円	16.64円	

(単位:億円)



- 欧米で高まる需要を背景に、販売チャネルの拡充と新製品効果で、売上高・販売台数は拡大
 - ✓ 北米販売台数 38%増 (2016年2月期 vs 2019年2月期)
 - ✓ 欧州販売台数 50%増 (" ")
 - ✓ 合計販売台数 40%増 (" ")
- 製造コスト増が想定以上であり、販売製品の構成変化に伴って、営業利益率は低下 (目標未達)
- 海外からの部品調達比率を高め(中国の製造子会社を含む)、為替変動への対応力を強化

前・中期経営計画レビュー ②営業利益



	主な取り組みと成果	評価
1	市場開拓と顧客満足度の向上 (1) 欧米に経営資源を重点配置した販売網の拡充と質的向上 (2) グローバルな顧客対応力の向上 (3) ディーラー、ディストリビューターに対する営業サポートの強化	◎ △ △
2	開発・生産活動の改革 (1) 製品開発力の強化 : 2017年2月期 TB2150、TL10V-2、TL12R-2 ※ 3年間で 8機種 販売開始 : 2018年2月期 TB2150R、TL6R : 2019年2月期 TB225、TB235-2、TB250-2 (2) 生産能力の強化 : 年間生産台数(本社工場) 2019年2月期 +46% (vs 2016年2月期)	○ ◎
3	コスト競争力と為替変動への対応力の向上 (1) コストダウンの推進 : 2017年2月期～2019年2月期の3年間で2億7,800万円のコスト増 (2) 海外部品調達力の推進 : 海外調達比率 2016年2月期 21.1% → 2019年2月期 30.1%	× ○
4	少数精鋭による効率的な業務運営 (1) 新・人事制度スタート : 従業員が意欲を持って働く筋肉質な企業体質 (2019年4月～) (2) 単体・従業員数 : 2016年2月期 419名 → 2019年2月期 447名 (+6.7%) (3) 1人あたり単体・売上高 : 2016年2月期 1.8億円 → 2019年2月期 2.2億円(+21.1%)	△ ○

欧州レビュー (2017年2月期～2019年2月期)

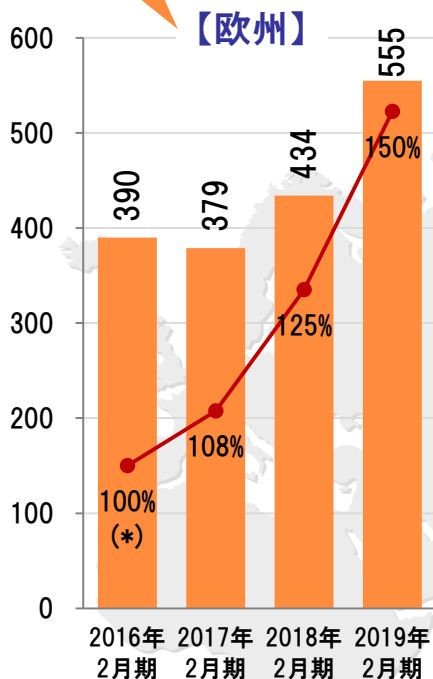
● 成果

- ✓ ミニショベルの販売躍進 (48.0%増、vs 2016/2期)
- ✓ ミニショベル市場シェア (2016年:2位 → 2018年:2位)
- ✓ 顧客ニーズに基づき開発した当社最大の油圧ショベル (15トン)が販売好調、事業領域拡大の糸口に

北米レビュー (2017年2月期～2019年2月期)

● 成果

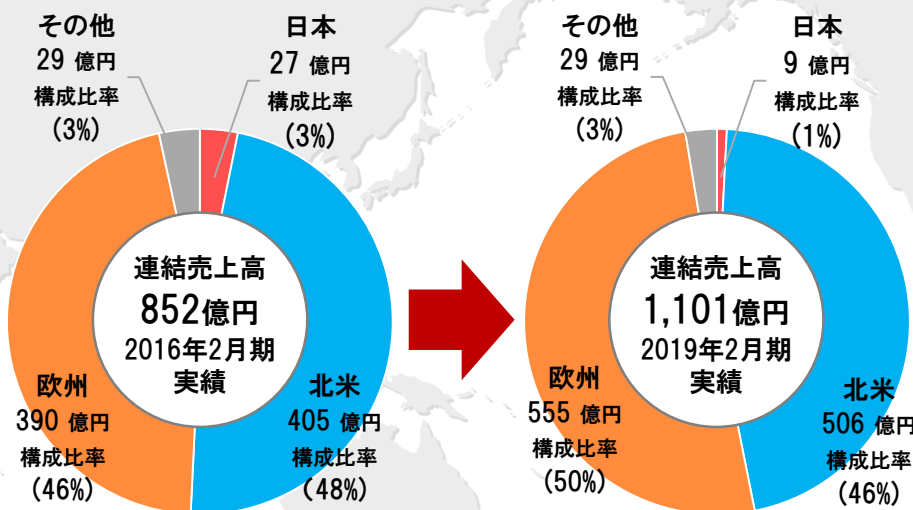
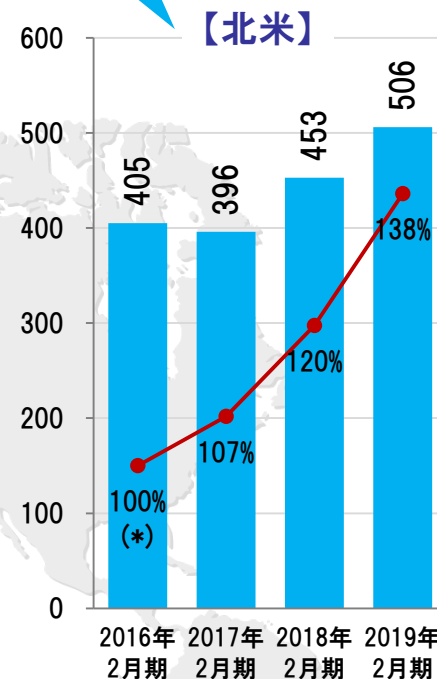
- ✓ クローラーローダーの販売躍進 (47.5%増、vs 2016/2期)
- ✓ ミニショベル市場シェア (2016年:5位 → 2018年:5位)
- ✓ ディーラー拠点数の拡大 (約20%増、vs 2016/2期)
- ✓ 製品網の拡充 (クローラーローダーをフルラインナップ)



● 課題(欧米共通)

アフター・ビジネスの拡大

- ✓ 国ごと、ディーラーごとに保守サービスのクオリティに差がある。
- ✓ 保守パーツのリードタイムが長い。



* 2016年2月期を100%とした販売台数の伸び率を表示

* 2016年2月期を100%とした販売台数の伸び率を表示

- ▶ 2019年2月期・連結業績 実績
- ▶ 2020年2月期・連結業績 予想
- ▶ 前・中期経営計画レビュー (2016年度－2018年度)
- ▶ **新・中期経営計画** (2019年度－2021年度)
 - (1) 環境分析、市場分析、自社分析
 - (2) スローガン、経営課題、数値目標
 - (3) 株主還元
- ▶ ご参考資料

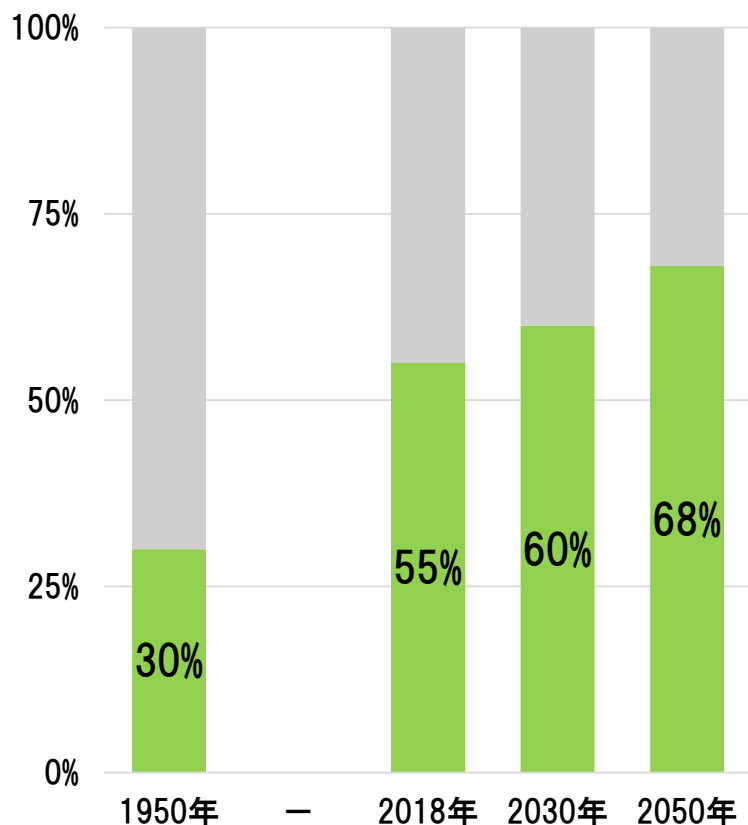
- 全世界的に都市化が進んでおり、今後も衰える気配はない
- 都市、インフラは必ず老朽化し、メンテナンス工事が不可欠



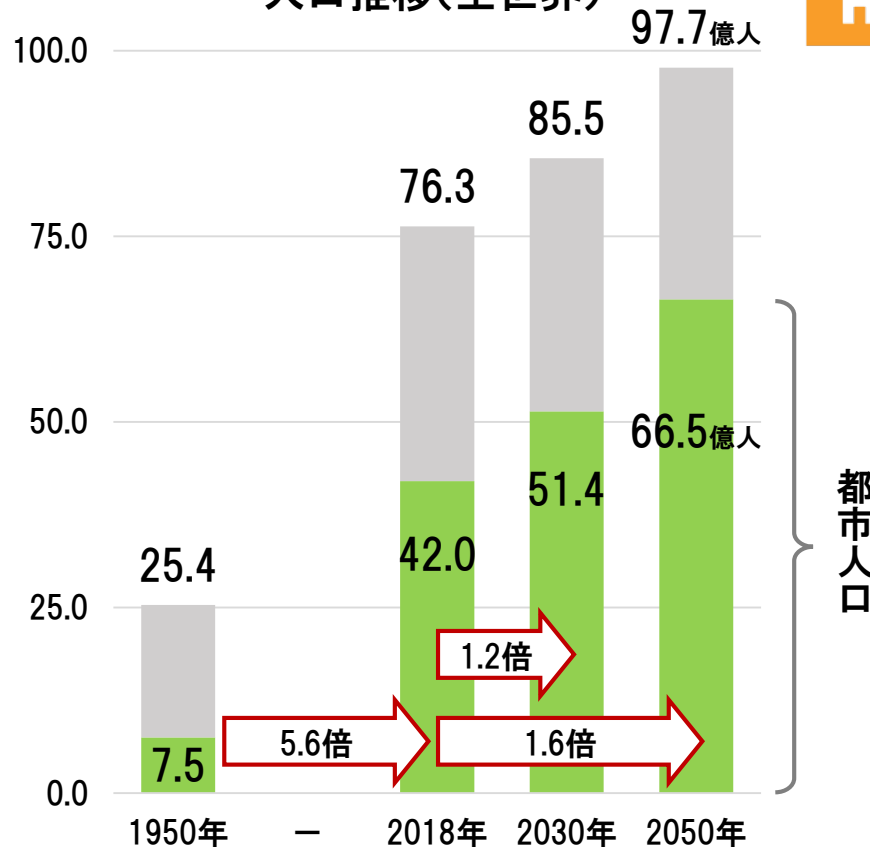
出所: 2018 Revision of World Urbanization Prospects
(国際連合・経済社会局、2018/5/16)



都市人口の割合(全世界)



人口推移(全世界)



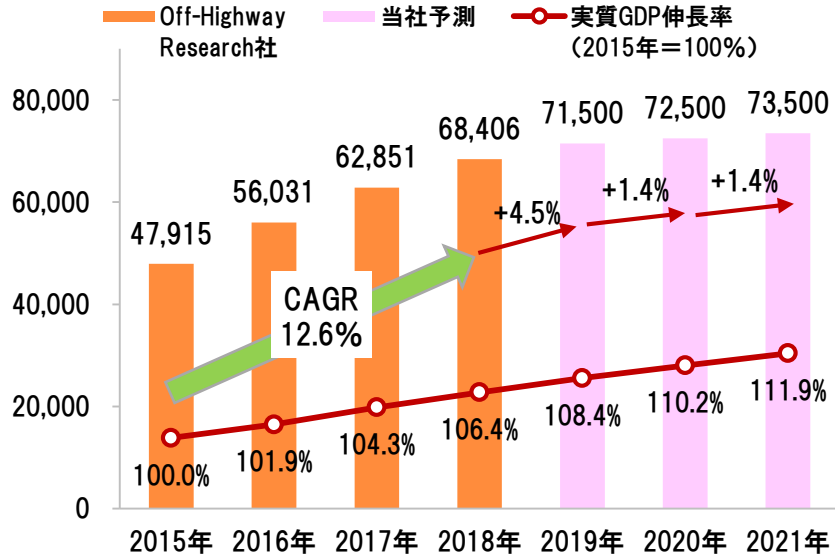
欧州

【マクロ経済予測】

1. Brexitや米中通商摩擦の余波など、政策動向に伴う景気減速を多少なりとも織り込む必要がある。
2. 労働力不足を背景とした失業率の低下、賃上げ機運の高まりにより、内需(個人消費)が欧州景気の下支えとなる。
3. IMFが公表する実質GDPの成長率については、低いながらも今後もアップトレンドが予想されている。

【ミニショベル販売予測】

1. 近年は高い需要水準で推移したが、欧州経済の減速感が強まり、2019年は2018年と半分程度の市場成長を予測。
2. 建機需要が腰折れするとは考えにくいが見通しの利きづらい2020年、2021年は実質GDPの成長率並みを予測。



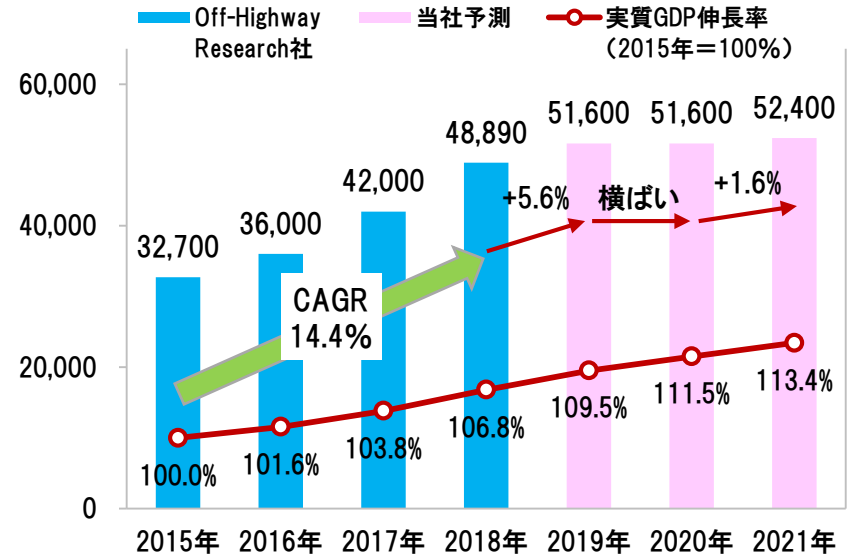
北米

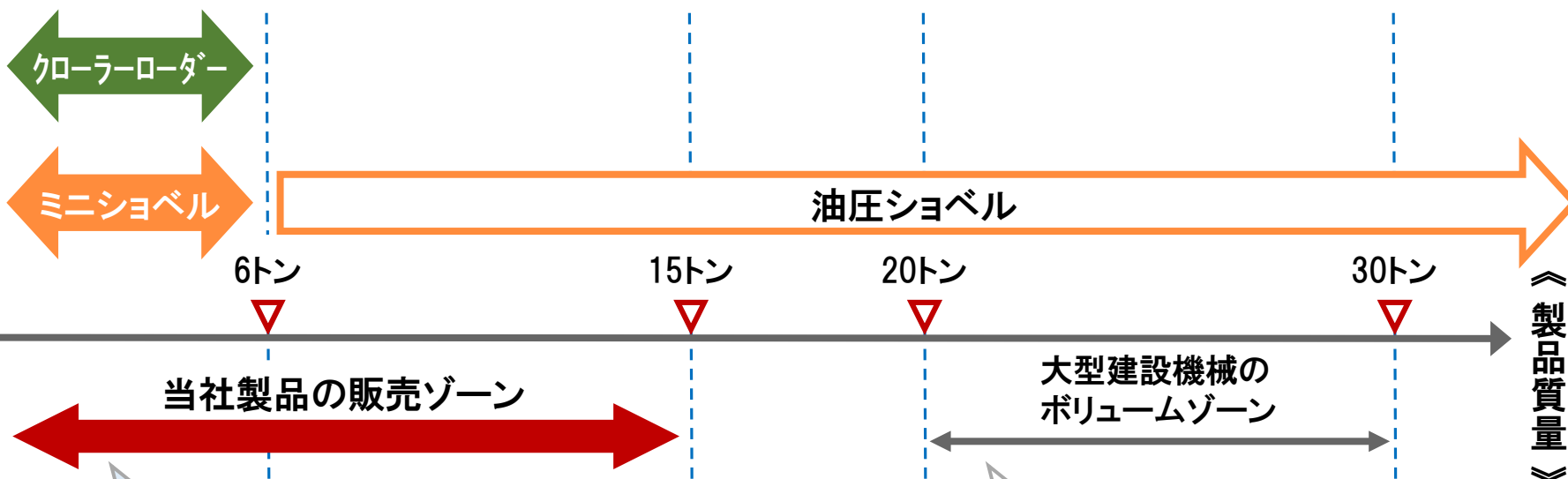
【マクロ経済予測】

1. 米中貿易摩擦があるものの、大規模減税とインフラ拡大等の財政支出により、当分の間は景気拡大が継続すると予測。
2. 失業率は歴史的な低水準で推移しており、当分の間は住宅需要を含む個人消費は堅調さを維持すると予測。
3. IMFが公表する実質GDPの成長率については、欧州より強めのアップトレンドが予想されている。

【ミニショベル販売予測】

1. 好調な経済成長、雇用環境、大統領が公言するインフラ投資拡大方針により、需要は増加していくと予測。
2. 大統領選挙の年は、需要が伸び悩むとのトレンド(経験則)より、2020年を横ばいで予測。





当社製品の代表的な用途

都市型・小規模工事(主に居住区域)

- ✓ 住宅関連 (基礎工事)
- ✓ 交通インフラ (生活道路)
- ✓ ライフライン (水道、下水道、ガス、電気)
- ✓ 建設投資 (工場、商業施設、ホテル)
- ✓ 都市緑化 (造園、植樹、ガーデニング)
- ✓ 災害復旧 (地震、ハリケーン、山火事)
- ✓ その他 (農林業、解体、粉砕)

大型建機の代表的な用途

大規模工事(非居住区域にも及ぶ)

- ✓ 住宅関連 (宅地造成)
- ✓ 交通インフラ (高速道路、トンネル)
- ✓ 土地開発 (山林開拓、法面整備)
- ✓ 湾岸整備 (港湾、防波堤)
- ✓ マイニング (鉱山採掘)

【独自の付加価値で竹内ファンを創造・拡大】

▶ 製品に対する市場評価が高い

- (1) 子会社、ディストリビューターからの市場情報に基づく製品開発を小回りよく行えている。→ **製品化が速い**
- (2) お客様の細かなニーズを仕様に反映できている。
製品リリース後もマイナーチェンジを継続し、常にベストをお客様に提供している。
- (3) **受注生産**により、お客様ごとの多様なオーダーにきめ細かく対応している。
≡ セミカスタム・メード、かゆいところに手が届く



独自の付加価値により、高価でも買って下さる竹内ファンを創造・拡大している。

- ✓ パワフル
- ✓ 耐久性
- ✓ 操作性
- ✓ 快適性

**説明不要、
乗れば分かる**



中期経営方針：新たな扉を開く

- ✓ 連結売上高 1,000億円 達成を通過点とした新たな挑戦
- ✓ 「世界初から世界の竹内へ」のこだわりの経営の堅持

1. 経営課題

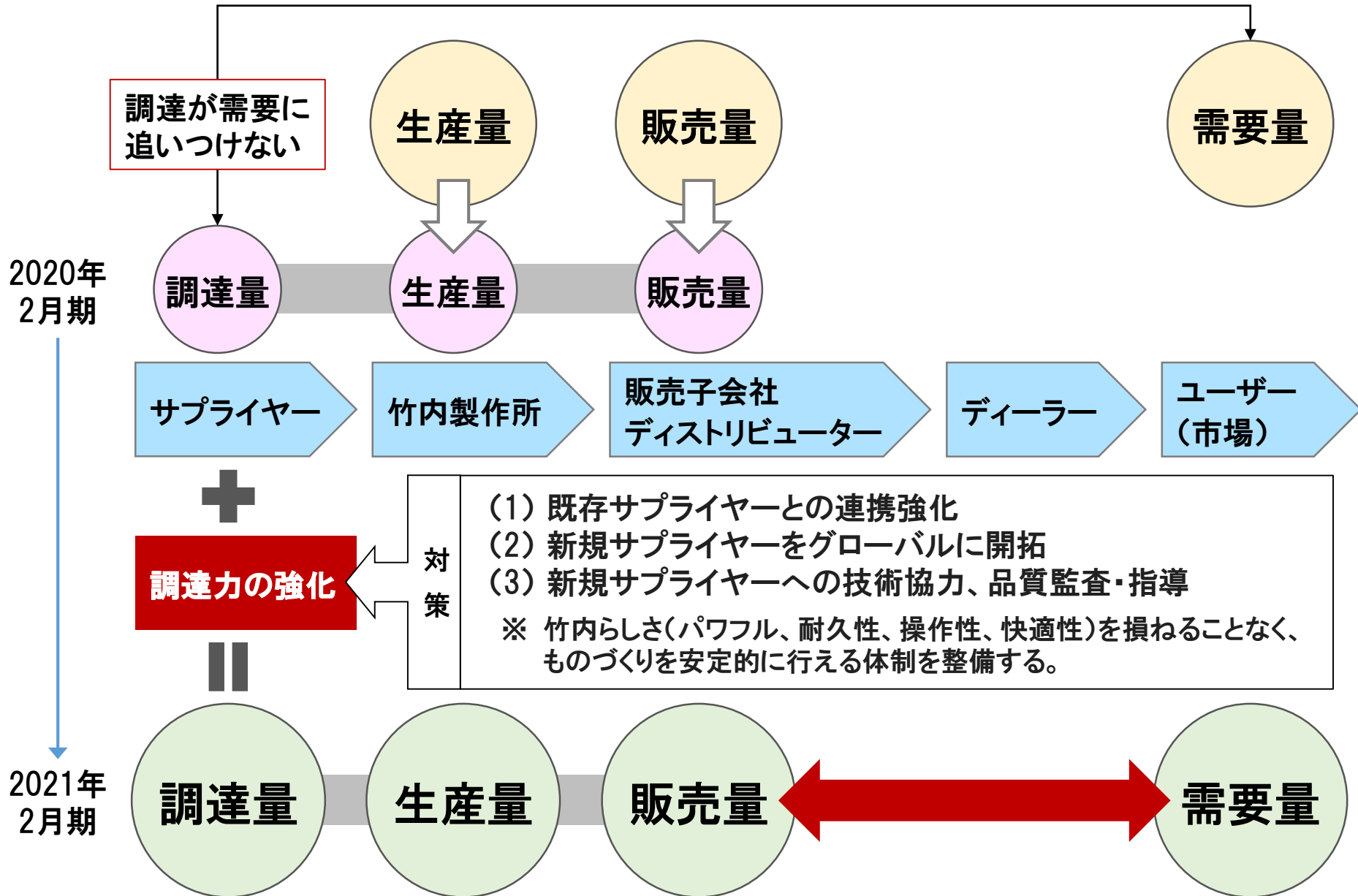
- ① 質的・量的に安定調達できる購買体制の構築
- ② 販売ネットワークの強化
- ③ 開発力の強化
- ④ 生産能力の強化
- ⑤ サステナブル(持続可能な)経営の推進 (SDGs)

2. 数値目標

		2019年2月期	2022年2月期	
1	売上高	1,101億円	1,300億円	+約200億円、+18.0%
2	営業利益 └ 営業利益率	154億円 └ 14.0%	155億円 └ 11.9%	営業利益率の主な低下要因 ①為替、②基盤強化、③販売運賃、④原材料コスト
3	海外調達比率	30.1%	35%	海外調達を拡大し、為替抵抗力を強化する

前提為替レート(3ヶ年) 米ドル:108円、英ポンド:140円、ユーロ:122円、人民元:15.90円

質的・量的に安定調達できる購買体制の構築



販売ネットワークの強化

➤ アフター・サポート体制の強化

- ✓ アフタービジネスの拡大
(保守サービス契約、保守パーツ販売)
- ✓ 顧客の囲い込み
(竹内ファンの維持・拡大)

1. 拠点開設

- ✓ 保守パーツのリードタイム短縮
- ✓ 保守サービスのレベル向上

① 北米 (Takeuchi US)

✓ 倉庫増設 (本体 & 保守パーツ) — 2020年2月期

✓ 保守トレーニング・センター開設 — 2020年2月期

② 欧州

✓ 保守パーツ・センター開設 — 2021年2月期

2. 情報システムの構築

- ✓ 故障時のダウンタイム削減
- ✓ サポート情報、ノウハウの共有 → 保守サービスのレベル向上

① GPS通信機能

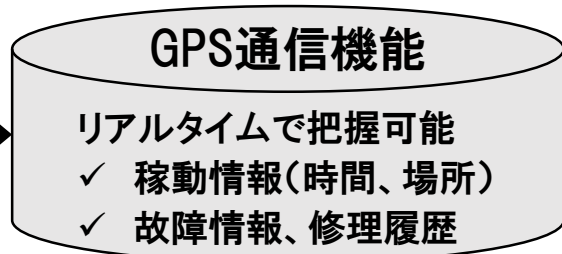
✓ 北米向け全台に搭載完了、欧州向けは2019年～

② 統合管理システム

✓ 保守パーツ販売のIT化

✓ 情報をWebに蓄積 & 共有

2020年～北米開始
→ その後欧州



竹内製作所

販売子会社
Distributor

ディーラー

ユーザー

統合管理システム

- ✓ 保守パーツリスト&EC機能
- ✓ Knowledge Data Base
(ノウハウ、知識、情報の共有)

1. 竹内製品が満たすべき基準(強み・らしさ)の維持・向上

- (1) パワフル
- (2) 耐久性
- (3) 操作性
- (4) 快適性
- (5) 採算性

基準を明確化(可能な限り数値化)し、設計品質を維持・向上

利益(台当たり粗利)向上を意識した製品設計

2. 環境にやさしい製品開発

- (1) 排出ガス規制 … 米国Tier4 Final、欧州Stage V
- (2) 2Wayショベル … 主はエンジン駆動+屋内では電動(プラグにつないで有線)
- (3) バッテリー式ショベル … 欧州展示会(bauma 2019)に出展

bauma 2019

2019年4月8日~14日(ドイツ、ミュンヘン)



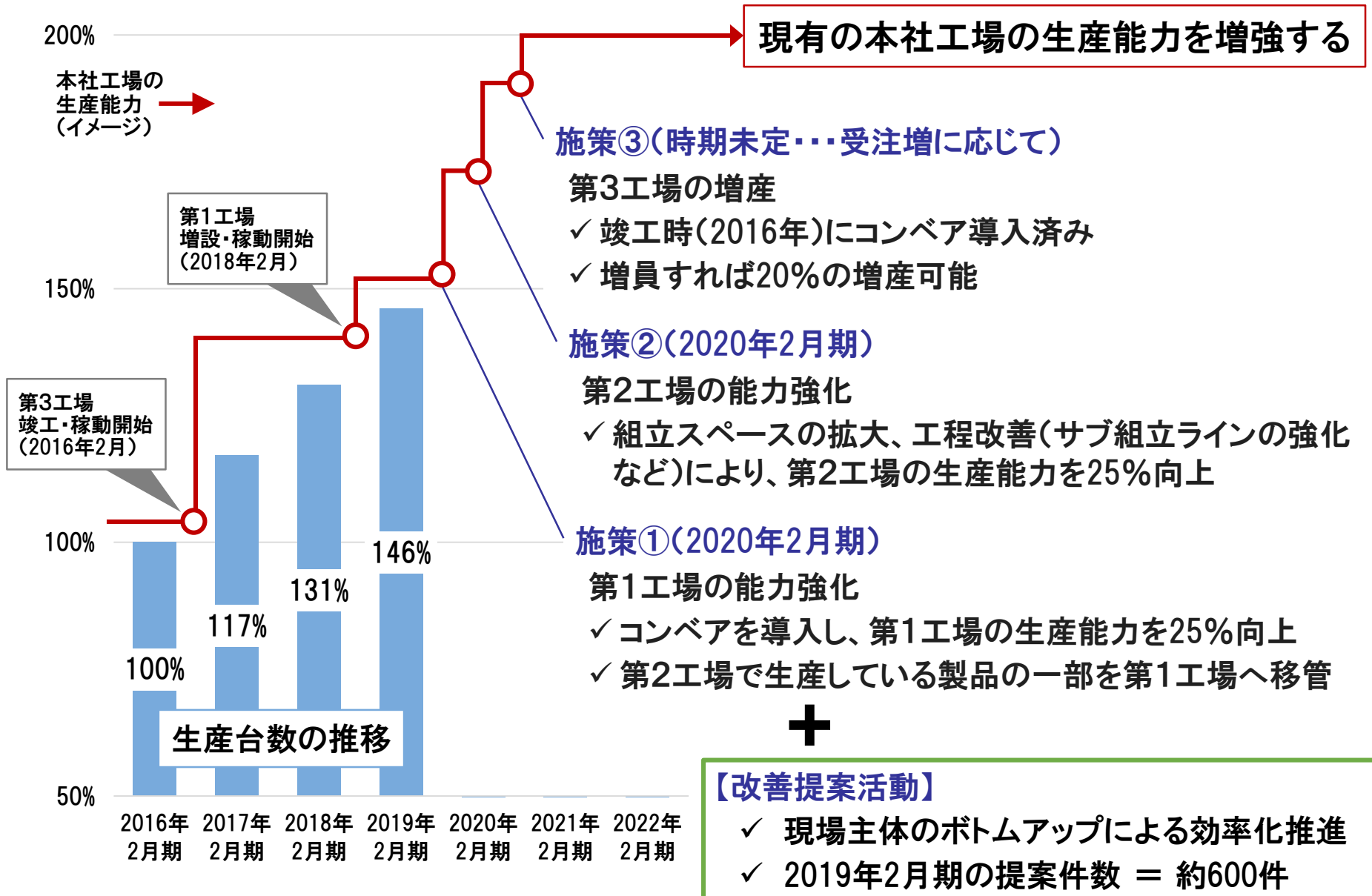
6.5トン油圧ショベル



バッテリー式ショベル



ブース全景



設備投資計画

本社・第3工場 竣工 (約30億円)

びんぐし試験棟 建設 (約9億円)



本社・第1工場 増設 (約3億円)

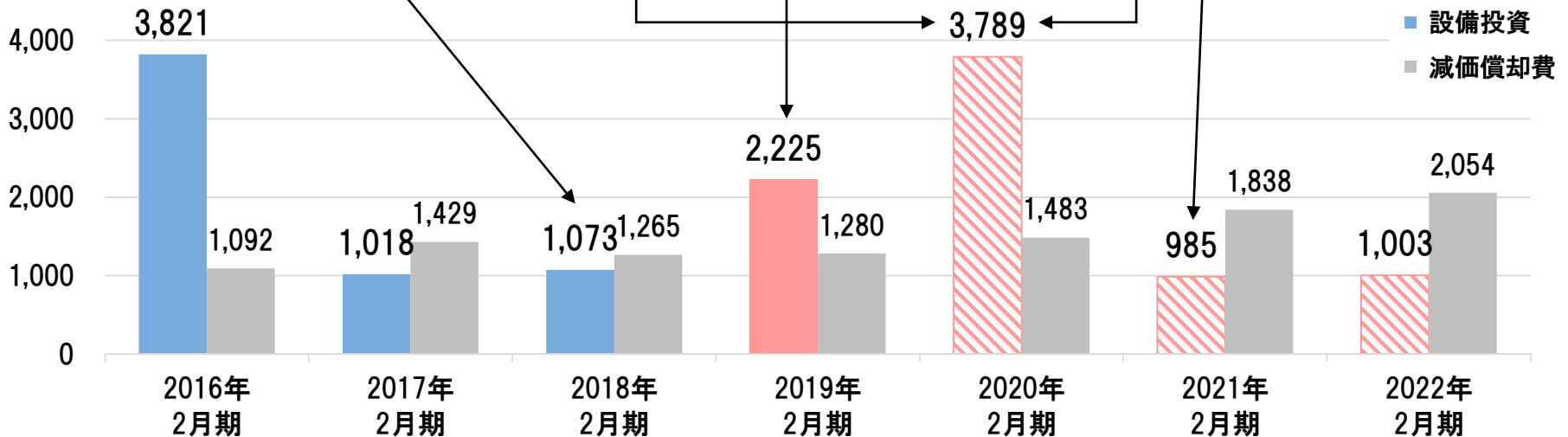
中国・青島工場 増設 (約13億円)

2020年2月期

- 米国 (Takeuchi US)
 - (1) 倉庫増設(本体&保守パーツ) 約5.3億円
 - (2) トレーニング・センター開設 約4.0億円

2021年2月期

- 欧州
 - 保守パーツ・センター開設



当社グループは、国連サミットで採択された“持続可能な開発目標(SDGs)”を念頭に、地球にやさしく、豊かな社会の実現に貢献します。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



SDGs(Sustainable Development Goals)の詳細については、国際連合広報センターのWebサイトをご覧ください。
http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

Our Business



当社グループの事業領域そのもの

事業領域＝建設機械の開発・製造・販売を通じ、**“人々の毎日の暮らしを支え続ける”**ことと定義

主に居住区域における都市型・小規模工事

- ✓ 住宅の基礎工事
- ✓ 水道管やガス管の配管工事
- ✓ 公園や庭に木を植える造園工事
- ✓ 老朽化した建物の補修・解体工事
- ✓ 地震、ハリケーン、山火事、洪水などの災害復旧工事 etc

➔ 街づくりとそのメンテナンスには欠かせない製品

Environment



Social



Governance



当社製品の活用事例



SDGs (Sustainable Development Goals)

<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>
<p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>

1. 太陽光発電



本社・第3工場

発電容量: 250kWh



本社・第1工場

発電容量: 70kWh

- ✓ 本社・第3工場の使用電力の約60%をまかなう
- ✓ 2016年3月の本社・第3工場稼働開始～2019年3月末までの総発電量
= 104.2万kWh (4人家庭の1日あたり電気使用量=18.5kWh ∴ 56,300日分=154年分に相当)

2. 環境にやさしい製品開発

- (1) 排出ガス規制 … 米国Tier4 Final、欧州Stage V
- (2) 2Wayシヨベル … 主はエンジン駆動+屋内では電動（プラグにつないで有線）
- (3) バッテリー式シヨベル … 欧州展示会(bauma 2019)に出展

SDGs
(Sustainable Development Goals)



竹内製作所TOPページ > 採用スペシャルサイト > Takeuchiのひと

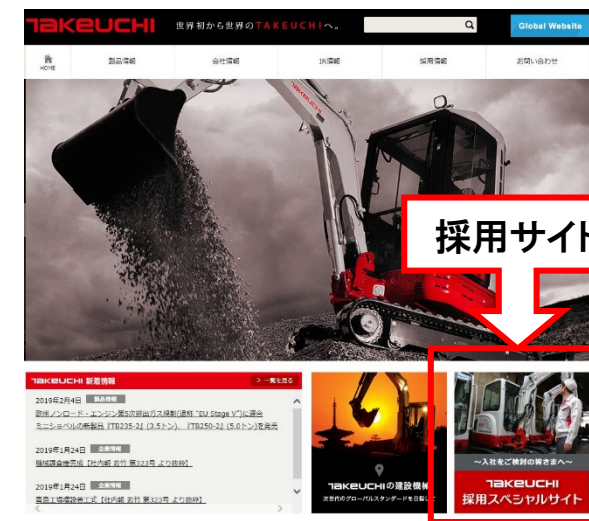


【人財は最大の経営資源】

人を軸とした経営基盤の強化に取り組む

●今後の課題

- ✓ 意欲を持って働ける人事制度
- ✓ ダイバーシティーな人材登用
- ✓ より働きやすい環境整備



SDGs (Sustainable Development Goals)



数値目標

	2019年 2月期	2022年 2月期	増減率
売上高	1,101億円	1,300億円	+18.0%
営業利益 └ 営業利益率	154億円 14.0%	155億円 11.9%	横ばい
海外調達比率	30.1%	35%	***
米ドル	110.06円	108.00円	△2.06円
英ポンド	145.91円	140.00円	△5.91円
ユーロ	129.16円	122.00円	△7.16円
人民元	16.64円	15.90円	△0.74円

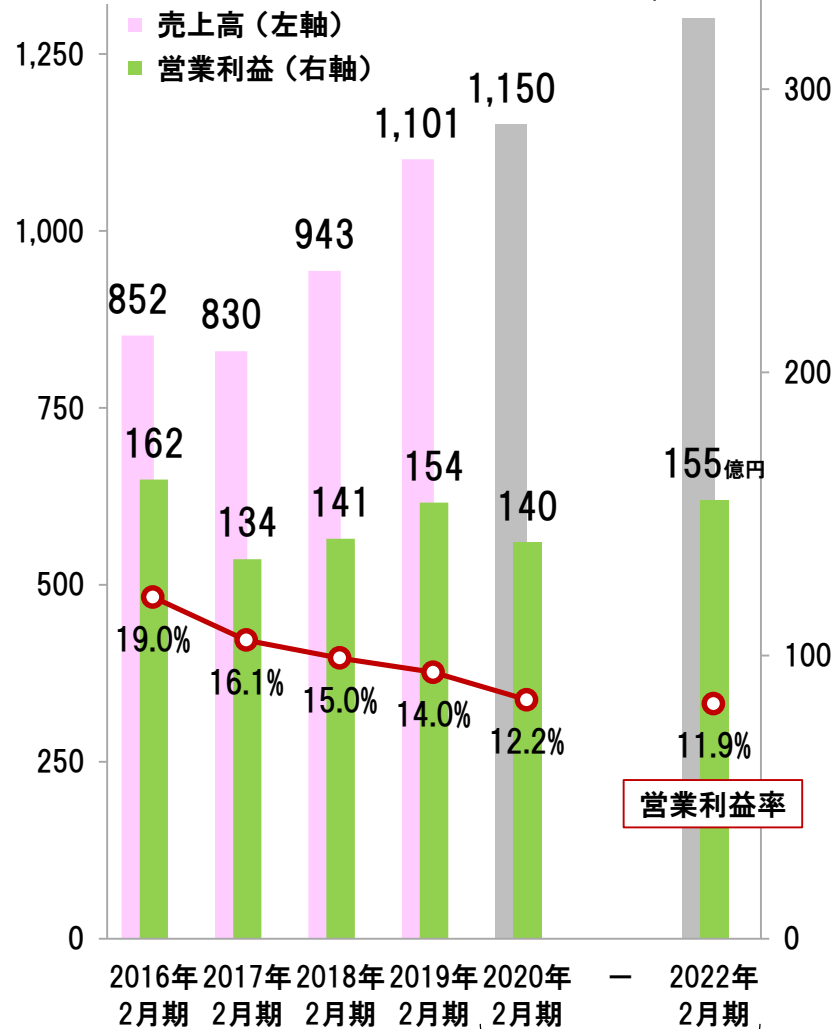
【売上高】

- ① 住宅建築、生活インフラ整備、官民の建設投資をはじめ、当社製品の**需要は今後も継続的に拡大**
- ② 当社事業は成長市場にあり、**欧米先進国を中心**とした販売拡大、売上拡大が十分可能

【営業利益】 営業利益率の主な低下要因 (vs 2019年2月期)

- | | | |
|----------------|---------|---------|
| ① 為替影響 | △16.0億円 | |
| ② 基盤強化のためのコスト増 | △12.5億円 | |
| ③ 販売運賃増 | △10.0億円 | 合計 |
| ④ 原材料コスト増 | △3.5億円 | △42.0億円 |

(単位:億円)

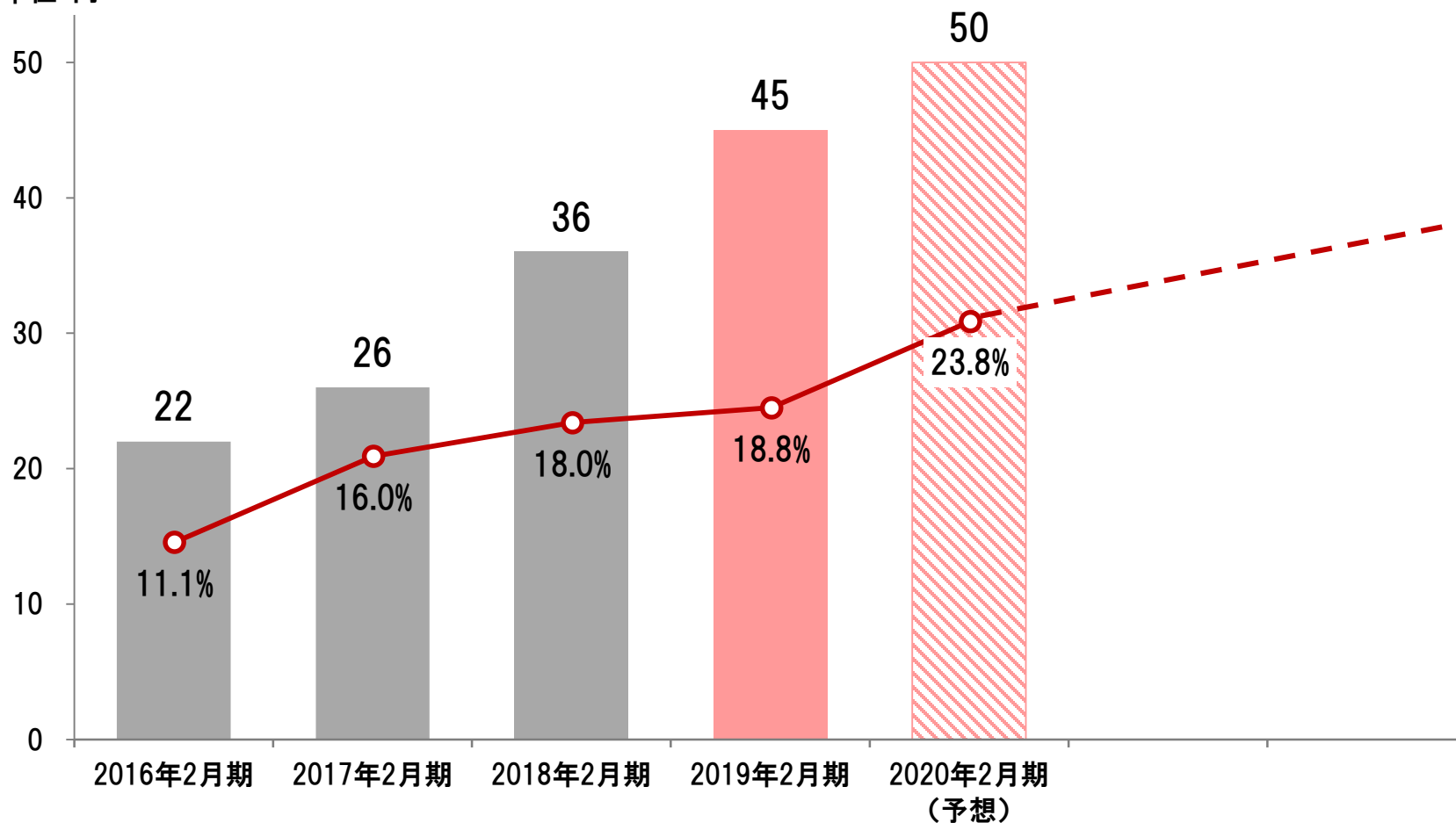


中期経営計画
(FY2019 - FY2021)

配当方針：経営体質の強化並びに今後の事業展開に備えるために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当の継続に努めることを基本方針としております。

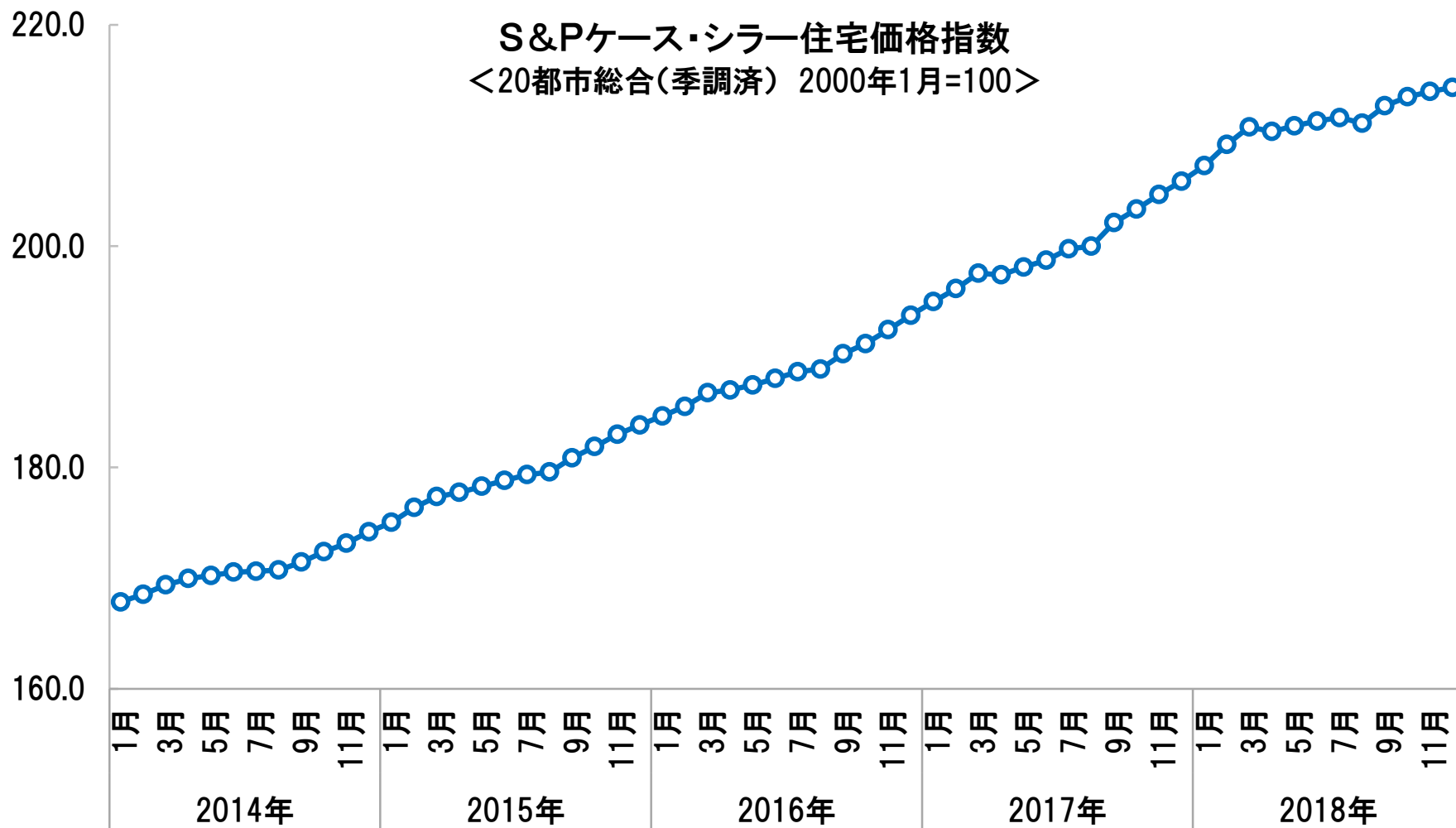
1株当たり配当金、連結配当性向の推移

単位：円



- ▶ 2019年2月期・連結業績 実績
- ▶ 2020年2月期・連結業績 予想
- ▶ 前・中期経営計画レビュー (2016年度－2018年度)
- ▶ 新・中期経営計画 (2019年度－2021年度)
 - (1) 環境分析、市場分析、自社分析
 - (2) スローガン、経営課題、数値目標
 - (3) 株主還元
- ▶ **ご参考資料**

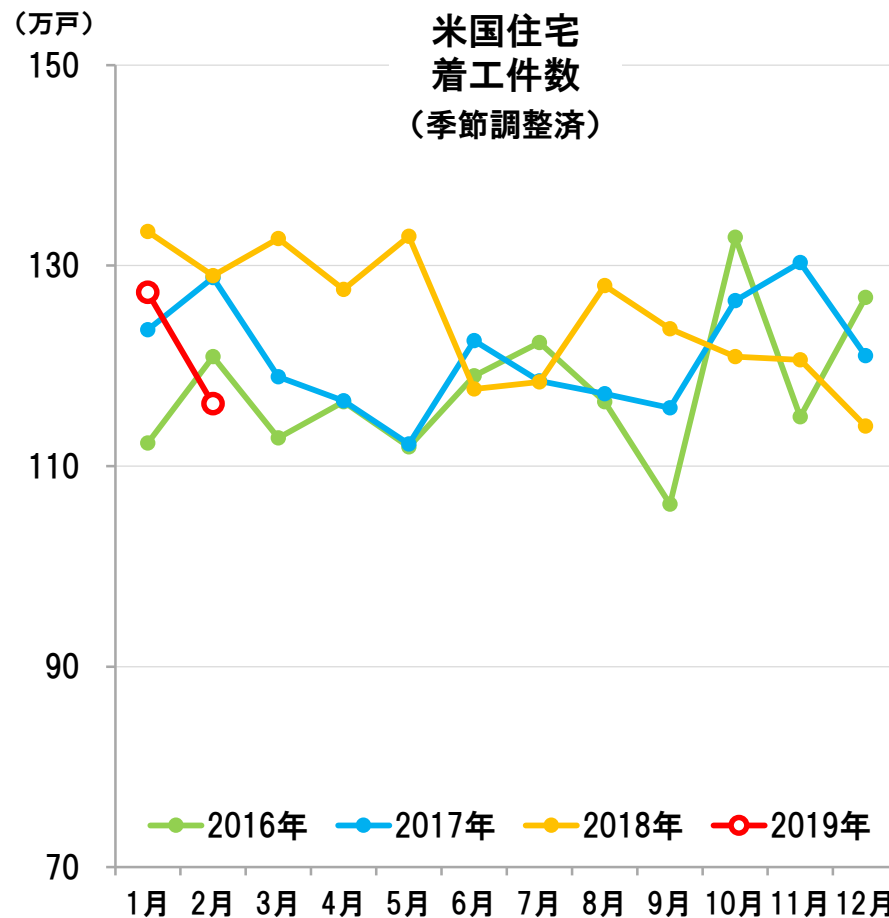
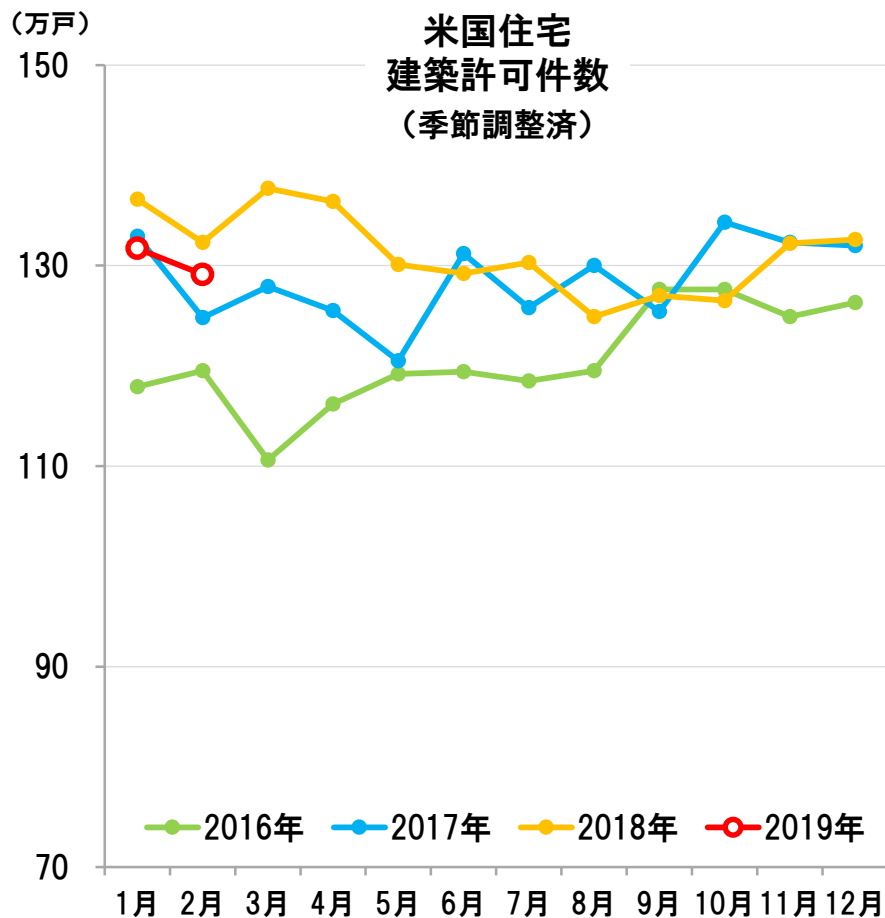
▶▶ 米国の住宅投資環境



(出所) S&P

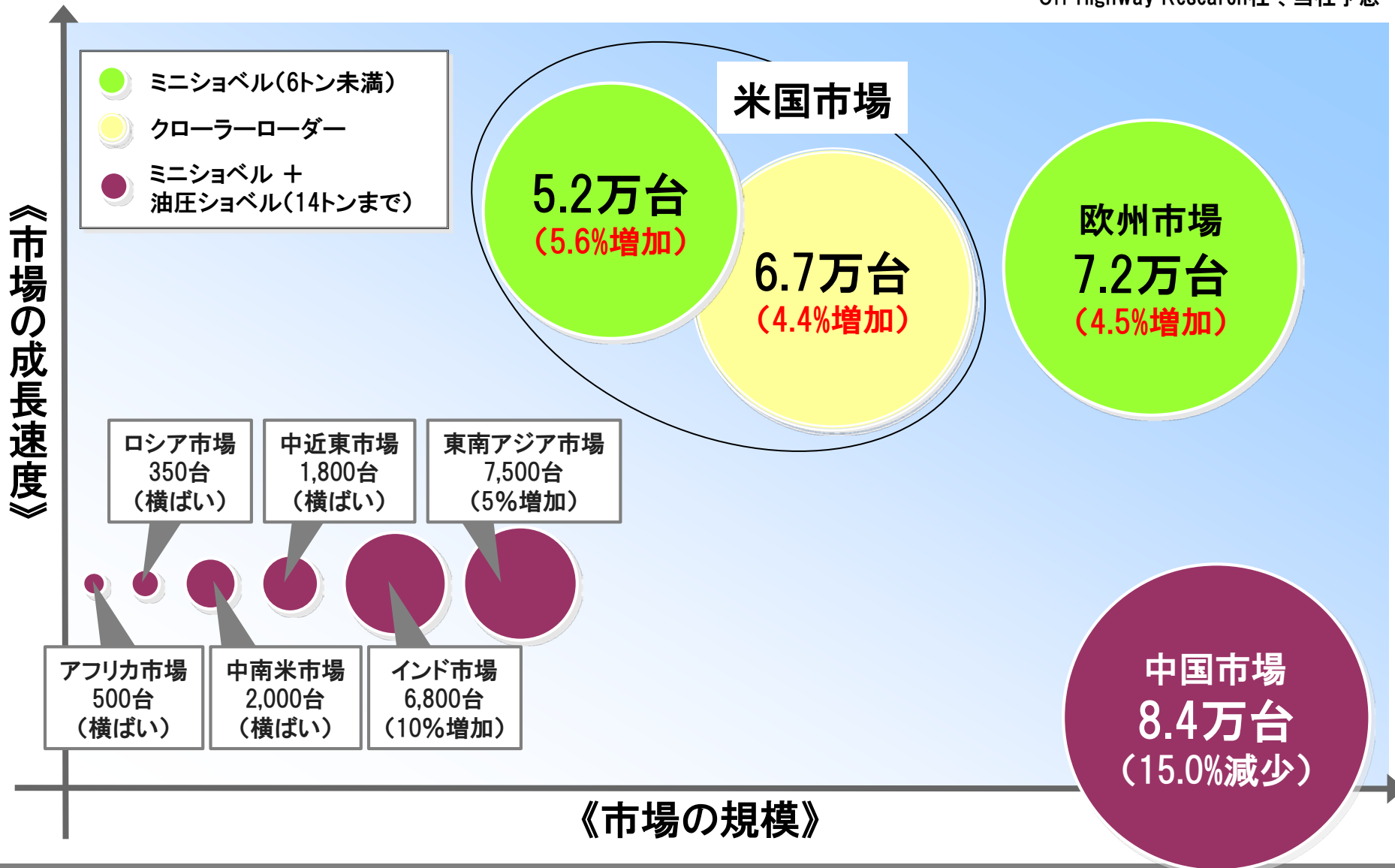
▶▶ 米国住宅市場の現況：需給の調整局面に入って減少したものの、**高水準を維持**

- 住宅価格や金利の上昇により、住宅取得が困難になっており、住宅建築許可、着工件数が**減少**
- ただし、米国の世帯数は着実に増加しており、住宅の潜在需要は**底堅い**
- 良好な雇用・所得環境、堅調な個人消費も踏まえ、住宅需要の大幅な落ち込みは考えにくい



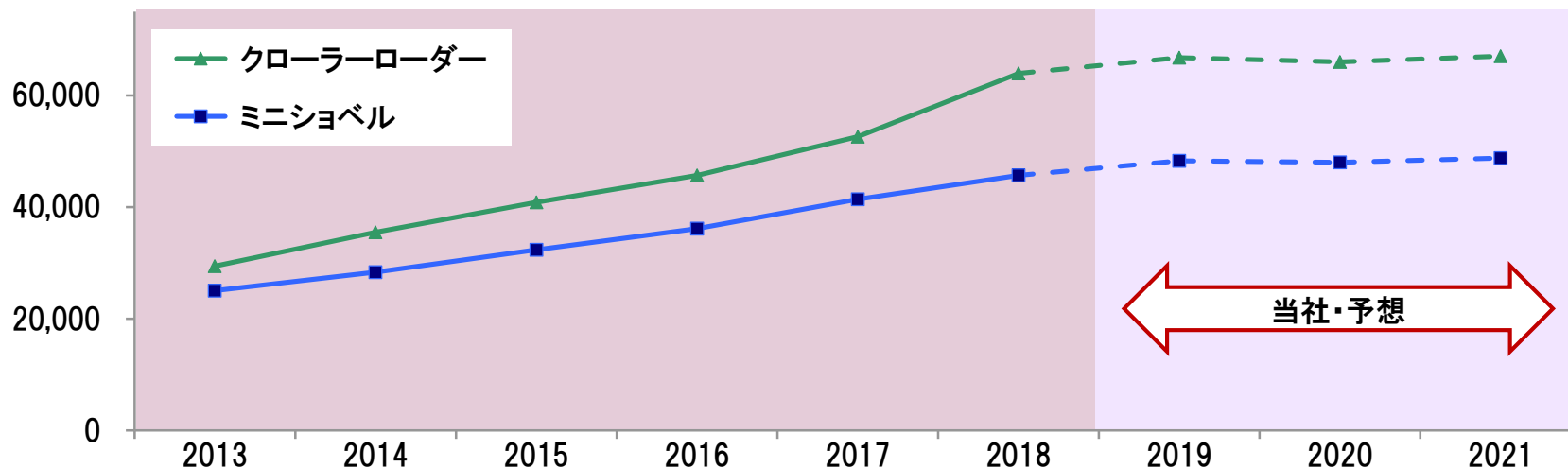
▶▶ 2019年の市場見通し概観（カッコ内は前年比伸び率）

（出所）
Off-Highway Research社、当社予想



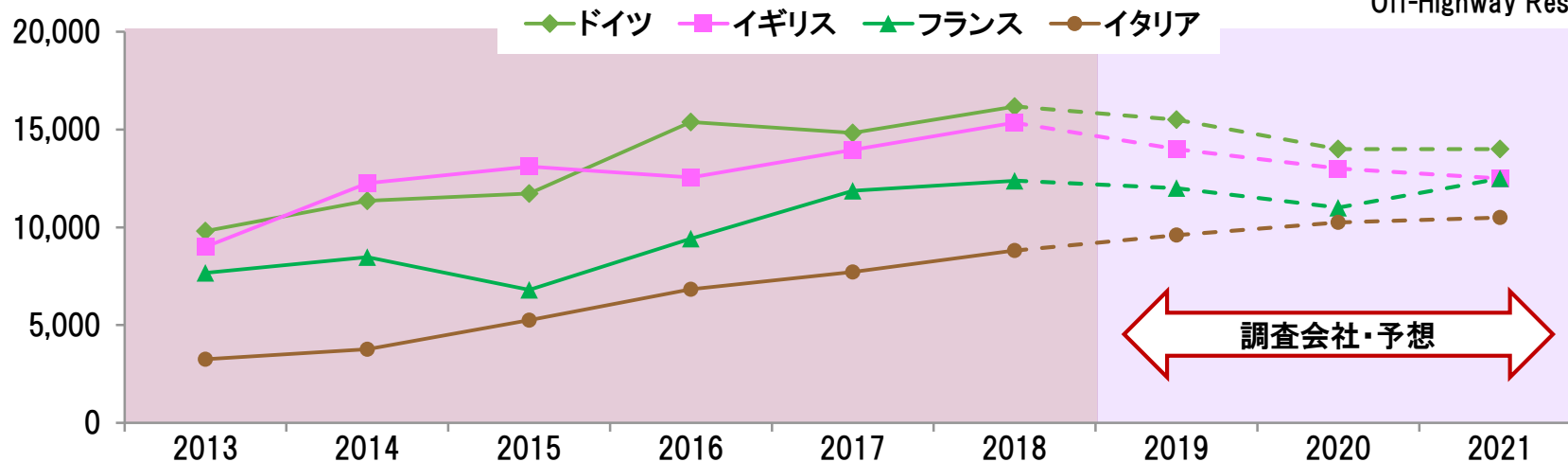
▶▶ 北米 ミニショベル・クローラーローダーの中期市場見通し

(出所) 実績は工業会(AEM)
予想は当社



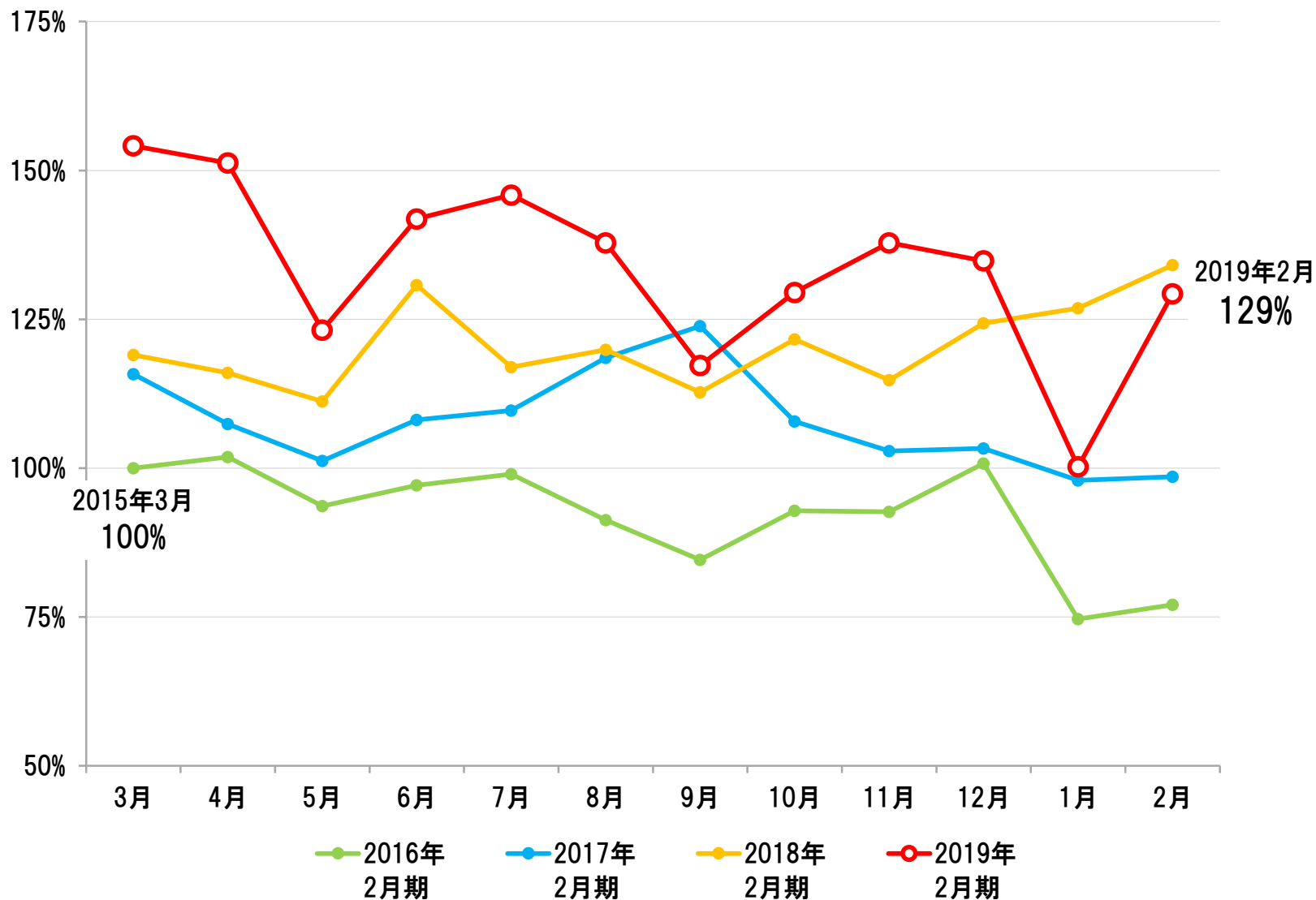
▶▶ 欧州 ミニショベルの中期市場見通し

(出所) 実績、予想ともに
Off-Highway Research社



月別生産台数の推移

2015年3月=100%



会社名	株式会社竹内製作所	
英文社名	TAKEUCHI MFG. CO., LTD.	
代表者	代表取締役社長 竹内明雄	
本社所在地	長野県埴科郡坂城町上平205番地	
設立	1963年8月21日	
決算期	2月末	
資本金	3,632百万円 (2019年2月28日現在)	
売上高(連結)	110,175百万円 (2019年2月期)	
従業員数(連結)	734名 (2019年2月28日現在)	
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部 (証券コード 6432)	
子会社	米国	TAKEUCHI MFG.(U.S.),LTD. (設立 1979年2月)
	英国	TAKEUCHI MFG.(U.K.)LTD. (設立 1996年10月)
	仏国	TAKEUCHI FRANCE S.A.S. (設立 2000年6月)
	中国	竹内工程機械(青島)有限公司 (設立 2005年4月)

<主力製品>

ミニショベル・油圧ショベル

- ✓ 当社が世界初のミニショベルを開発
(1971年)
- ✓ ミニショベル
製品重量が6トン未満のもの
- ✓ 油圧ショベル
製品重量が6トン以上のもの

主な用途

- ✓ 住宅建築の基礎工事
- ✓ 道路、水道管、ガス管等のインフラ工事
- ✓ 官民の建設投資(工場、商業施設等)
- ✓ 災害復旧工事



クローラーローダー

- ✓ 当社が世界初のクローラーローダーを開発(1986年)
- ✓ ミニ/油圧ショベルより移動速度が速く、
運搬作業に向く
- ✓ 販売のほとんどが北米

主な用途

- ✓ ミニショベルで掘削した土砂の運搬
- ✓ 地面の掘削、整地
- ✓ アーム先端のバケット部を交換することで
様々な作業が可能



単位:百万円		第53期	第54期	第55期	第56期	第57期	第58期(予想)	
		2015年2月期	2016年2月期	2017年2月期	2018年2月期	2019年2月期	2020年2月期	前年増減額
日	本	1,549	2,740	2,093	2,427	940	690	△250
北	米	31,094	40,503	39,657	45,360	50,696	53,480	+2,783
欧	州	33,431	39,009	37,988	43,467	55,561	59,050	+3,488
ア	ジ	1,742	894	760	864	1,000	720	△280
そ	の	2,075	2,072	2,501	2,222	1,977	1,060	△917
他								
売	上	69,893	85,218	83,000	94,342	110,175	115,000	+4,842
高								
営	業	10,593	16,222	13,404	14,133	15,411	14,000	△1,411
利	益							
経	常	12,249	15,291	11,722	14,033	15,496	14,000	△1,496
利	益							
親会社株主に帰属する								
当	期	7,694	9,708	7,757	9,547	11,391	10,000	△1,391
純	利							
益								
1	株	157.04円	198.14円	162.07円	200.20円	238.83円	209.66円	△29.17円
純	利							
益								
※1								
1	株	9.00円	22.00円	26.00円	36.00円	45.00円	50.00円	+5.00円
配	当							
金								
円	/	108.42円	121.25円	108.30円	111.58円	110.06円	108.00円	△2.06円
米	ド							
ル								
円	/	174.79円	184.99円	145.32円	146.80円	145.91円	140.00円	△5.91円
英	ポ							
ン	ド							
※2								
円	/	139.74円	133.16円	119.55円	128.67円	129.16円	122.00円	△7.16円
ユ	ー							
ロ								
円	/	17.26円	19.19円	16.40円	16.63円	16.64円	15.90円	△0.74円
人	民							
元								
純	資	46,093	55,043	60,080	68,106	77,180		
資	産							
総	資	66,311	77,216	83,085	91,799	104,045		
資	産							
自	己	69.5%	71.3%	72.3%	74.2%	74.2%		
資	本							
比	率							
R	O	18.5%	19.2%	13.5%	14.9%	15.7%		
E								
※3								
R	O	20.6%	21.3%	14.6%	16.0%	15.8%		
A								
※4								

※1 2015年9月1日付で1:3の割合で株式分割を実施、第53期の1株純利益、1株配当金は、当該株式分割を考慮して便宜的に表示

※2 為替レートは、12ヶ月間の平均レートを表示

※3 ROE(自己資本当期純利益率) = 当期純利益 ÷ 純資産 × 100 (純資産は期首・期末の平均値)

※4 ROA(総資産経常利益率) = 経常利益 ÷ 総資産 × 100 (総資産は ")

お問い合わせ先

株式会社竹内製作所

経営管理部 経営企画課

TEL : 0268-81-1200

FAX : 0268-81-1127

E-mail : ir@takeuchi-mfg.com

本資料で記述しております業績予想並びに将来予想は、資料作成時点で入手可能な情報に基づいて算定しておりますが、需要動向などの業況の変化、為替レートの変動等、多分に不確定要素を含んでおります。

そのため、実際の業績は、様々な要因の変化により、業績予想と乖離する可能性があることをご承知おき下さいますようお願いいたします。